教育委員会の所管事務に係る
点検・評価報告書

（令和４年度事業）

令和５年１１月

桑折町教育委員会

目 次

第１ 点検及び評価の概要
１ はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２ 評価の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
⑴ 点検及び評価の対象
⑵ 点検及び評価の方法
３ 外部有識者の知見の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
４ 報告及び公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第２ 教育委員会の事務の管理及び執行状況
○ 令和４年度桑折町教育委員会重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
○ 評価
・ こども教育係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
１ 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育・・・・・・・・・・・・・・・ 8
２ 一人一人を大切にする温かい教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
３ 新しい時代に必要となる資質・能力の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
４ 幼児教育の質の向上と小中学校への接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
５ 家庭への手厚い子育て支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
６ 小中学校のあり方の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
７ 教育施設・設備の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
・ 生涯学習係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
１ 生涯学習活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
２ 社会体育・生涯スポーツの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
３ 歴史まちづくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第３ 教育委員会の校長に委任する事務の管理及び執行状況
○ 学校経営評価報告書（小学校４校、中学校１校）・・・・・・・・・・・・・・ 63
○ 学校経営自己評価票（小学校４校、中学校１校）・・・・・・・・・・・・・・ 82

第４ 教育委員会の園長に委任する事務の管理及び執行状況
○ こども園経営評価報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
○ 経営自己評価票（幼稚園１園、保育所１所）・・・・・・・・・・・・・・・・95

第５ 第三者評価委員会による評価
○ 会議開催経過と主な内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
○ 評価に対する評価委員からの意見等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99

第６ 参考資料
○ 桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者委員会設置に関する規則
○ 桑折町教育大綱
○ 桑折町の15歳のめざす姿

第１　点検及び評価の概要

１　はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することとされています。

桑折町教育委員会では、同法の規定及び桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則に基づき、教育委員会の重点施策について点検・評価を実施するものです。

［抜粋］地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第 26 条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
2　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２　評価の進め方

(1) 点検及び評価の対象

①　「令和４年度桑折町教育委員会重点」に掲げた取組みに関する自己評価
②　町立小中学校の学校経営評価
③　町こども園の園経営評価

(2) 点検及び評価の方法

(1)の①については、それぞれの担当者による自己評価(＊)と教育委員評価、(1)の②・③については小中学校長・こども園長、保育所長による自己評価を行い、これに対し、学識経験を有する者による「第三者評価」を行います。

評定については、４段階評価（Ａ：大変良い、Ｂ：良い、Ｃ：やや悪い、Ｄ：悪い）で行います。

＊生涯学習・スポーツ関係は社会教育委員、文化財関係は文化財保護審議委員による評価も付す。

３　外部有識者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、外部有識者による知見を活用するため「第三者評価委員会」

を設置し、教育施策の一層の改善・充実を図ります。

［第三者評価委員］

○ 岡 﨑 一 也　（元 伊達市立梁川小学校長・伊達地区小中学校長協議会長）

○ 佐久間敏彦　（現 福島市生涯学習課生涯学習指導員・元 福島県教育庁県北教育事務所社会教育課長）

○ 中 田　　巧　（前 町ＰＴＡ連絡協議会副会長・醸芳中学校 PTA 副会長）

４　報告及び公表

点検及び評価結果をまとめた報告書は議会へ提出するとともに、町公式ホームページへの掲載により公表します。

第２　教育委員会の事務の管理及び執行状況

令和４年度 桑折町教育委員会重点

Ⅰ　基本目標

桑折町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」に基づき、町の将来像「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進する。

Ⅱ　基本方針

１　子どもを大切にするまちづくり

みんなで子育て・教育に携わり、「子育てするなら桑折町」「桑折ならではの質の高い教育」と評価されるような乳幼児保育・教育や学校教育の推進を通して、子育て支援の充実と「桑折町の１５歳のめざす姿（人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子）」の実現に努める。

２　健康長寿で元気なまちづくり

生涯学習・生涯スポーツ事業の推進を通して、みんなが生きがいをもち、心身ともに健康で活き生きと暮らせるまちづくりに貢献する。

３　交流で絆を育むまちづくり

歴史まちづくりの推進を通して、みんなが互いに協力し、町の魅力や元気を発信しながら、交流の輪が広がるまちづくりに貢献する。

Ⅲ　重点施策

１　乳幼児保育と教育の充実

⑴待機児童ゼロの堅持

①保育士や支援員の確保と施設・設備の充実

⑵幼児教育の質の向上と小中学校への接続

①環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実

②保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施

⑶家庭への手厚い子育て支援

①子育て参考図書配付や家庭教育講演会開催

２　学校教育の推進

⑴一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育の推進

①脳科学研究に基づく生活習慣改善、読み・書き・計算徹底反復、探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践

②運動身体づくりプログラム、運動継続の一校（園）一実践

③不登校・いじめ対策

(2)新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①英語指導助手・指導協力員の活用

②１人１台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業、ＩＣＴ支援員配置・活用と教職員研修、ＩＣＴ教育環境の整備と充実

③持続可能な開発のための教育、感染症対策も含む健康教育

(3)一人一人を大切にする温かい教育

①特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用

②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援、教育支援センターによる教育機会確保と学校復帰支援

(4)家庭への手厚い子育て支援

①参考図書配付や家庭教育講演会開催による家庭の教育力向上支援

(5)教育施設・設備の充実

①学校施設・設備について、長期的な維持・管理・整備計画の作成

②給食センター施設・設備の計画的な維持管理・整備

(6)小中学校の在り方の検討

①学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析

②学校における働き方の推進

３　生涯学習の推進

(1)生涯学習活動の推進

①「桑折町生涯学習推進基本計画」の見直し

②ライフステージに応じた多様な学習機会の提供

(2)公民館施設等の管理運営

①各施設の計画的な維持補修

(3)芸術・文化の振興

①芸術鑑賞会や文化講演会の開催

②町文化団体連絡協議会（町文化祭事業含む）及び加盟団体等の活動奨励・支援

(4)多世代交流の推進

①地域学校協働活動事業

②ボランティア人材の発掘

③多世代交流の機会創出

(5)多文化交流の推進

①多文化に関する学習機会の提供

４　生涯スポーツの推進

(1)健康・体力づくりを目指す生涯スポーツの推進

①健康・体力づくりのための事業展開

(2)スポーツ団体等の支援

①各種スポーツ団体への活動支援

(3)体育施設等の充実

①体育施設全般の有効的な管理運営方法の検討

②経年劣化に伴う計画的な維持補修

5　歴史まちづくりの推進

(1)歴史的風致維持向上計画の推進

①歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進

②歴史案内人育成と体制の充実

③ふるさと教育の推進

(2)文化財の保護・活用の推進

①史跡桑折西山城跡の保存団体を組織し、維持管理や案内を行う体制づくり

(3)桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し

①文化記念館の復旧

②文化記念館の歴史探訪・観光拠点機能の充実

項　　目	評　　価			
	自己評価	教育委員評価	社会教育委員評価 文化財保護審議委員評価	第三者評価 委員評価
1　一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育				
(1)〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。	B	B	-	B
(2)〔体力向上〕子どもたちが生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成し、県トップレベルの体力・運動能力を実現する。	B	B	-	B
(3)〔心の教育〕子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。	B	B	-	B
2　一人一人を大切にする温かい教育				
(1)〔特別支援教育〕特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。	A	A	-	B
(2)〔不登校対応〕子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。	B	B	-	B
3　新しい時代に必要となる資質・能力の育成				
(1)〔英語教育〕子どもたちに英語の４つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。	B	B	-	B
(2)〔情報活用能力〕子どもたちにコンピュータ操作の基本やプログラミング的思考、情報モラルを身に付けさせ、情報技術を用いた問題発見・解決力の向上をめざす。	B	B	-	B
(3)〔各種教育課題〕子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育んでいくことをめざす。	B	B	-	B

項　　目	評　　価			
	自己評価	教育委員評価	社会教育委員評価 文化財保護審議委員評価	第三者評価委員評価
4　幼児教育の質の向上と小中学校への接続				
(1)〔保育改善・充実〕幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子どもたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。	B	B	-	B
(2)〔小中学校との連携〕幼稚園教育と小中学校教育との円滑な接続を図ることにより、子どもたちの成長が効果的に積み重ねられることをめざす。	B	B	-	B
5　家庭への手厚い子育て支援				
(1)〔経済的支援〕「待機児童ゼロ」を堅持するとともに、子育てに係る家庭の経済的負担を軽減することにより、すべての子どもが平等に充実した保育・教育を受けられることをめざす。	B	A	-	A
(2)〔家庭教育支援〕家庭の教育力向上に向けた支援を行うことにより、それぞれの家庭で子どもたちが健やかに成長することをめざす。	B	B	-	A
6　小中学校のあり方の検討				
(1)〔少子化への対応〕小学校が小規模化している現状を踏まえ、今後のあるべき姿を検討し、その実現をめざす。	B	B	-	B
(2)〔学校運営の改善〕今後求められる教育を実施していくために必要な学校運営のあり方について検討し、その実現をめざす。	B	B	-	B
7　教育施設・設備の充実				
(1)〔学校施設〕安全・安心で子どもたちの学びを支える良好な教育環境の維持・向上の方策を確立し、その実現をめざす。	B	B	-	B
(2)〔給食センター〕安全・安心でおいしい給食を安定供給するとともに、食育および地産地消の拠点としての機能を果たす施設としてのあり方を検討し、その実現をめざす。	B	B	-	B

1　一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="3">(1)　〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。
①　脳科学研究に基づく生活習慣改善（生活の基盤づくり）
②　読み・書き・計算徹底反復（学習の基盤づくり）
③　探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践
④　家読奨励
⑤　桑折学習塾</td></tr>
<tr><td rowspan="19">重点項目
と評価</td><td rowspan="3">①</td><td>1　川島隆太先生の著書の配付及び特別授業開催</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2　各学年での生活習慣の指導（学級活動）</td><td>b</td></tr>
<tr><td>3　家庭教育学級の実施、「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>1　町内小学校の共通実践（目標達成に向けた集中実施期間設定、チェックテスト）</td><td>a</td></tr>
<tr><td>2　読み・書き・計算徹底反復研修会の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="4">③</td><td>1　町内連携授業研究会</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2　秋田「探究型授業」研修</td><td>b</td></tr>
<tr><td>3　県教委「学びのスタンダード」の活用</td><td>b</td></tr>
<tr><td>4　学力の実態把握と分析、対策の立案と実践</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="3">④</td><td>1　家読運動とりくみコンクールの実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2　学校司書の活用による学校図書・読書に関わる環境の充実</td><td>b</td></tr>
<tr><td>3　幼稚園、絵本コーナーの充実と活用、絵本の貸し出し、家庭での読み聞かせの奨励</td><td>a</td></tr>
<tr><td rowspan="2">⑤</td><td>1　小学生対象…算数（算数ジュニアオリンピックへの支援を含む）・国語（年８回）</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2　中学生対象…数学・英語（年１６回）</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="4">具体的な取組</td><td rowspan="2">①</td><td colspan="2">1　・川島隆太先生の著書の配付及び特別授業の開催</td></tr>
<tr><td colspan="2">2　・各小・中学校における学級活動に位置付け、生活習慣の指導。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td colspan="2">1　・重点実施期間における町教育委員会視察訪問の実施：６月・１０月
・チェックテスト（３回）の実施と分析：７月・１１月・２月</td></tr>
<tr><td colspan="2">2　・徹底反復マニュアルに沿っての研修。
・徹底反復実践事例集の作成。</td></tr>
<tr><td>③</td><td colspan="2">1　・各校の一校一指定授業（ICT活用授業研究会、徹底反復の効果を活かす授業研究会、秋田探究型授業研究会を含む）及び各学校ごとの授業研究会の実施</td></tr>
</table>

具体的な取組		2	・東成瀬村の小・中学校への研修視察実施 ・授業研究会の実施
		3	・授業研究会などによる授業改善の実施。 ・「桑折町小学校・学びのスタンダード」の活用。
		4	・全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査そしてNRT学力検査結果の分析と対策の検討
	④	1	・毎月２３日を「家読の日」とし、家読とりくみコンクールの実施。
		2	・学校司書を活用した図書の整理や読書活動を促進
		3	・絵本棚の充実 ・毎週1回、全幼児に絵本の貸し出し実施。 ・家庭での読み聞かせの奨励。(絵本の読み聞かせカード)
	⑤	1	・４小学校において、国語と算数の実施。
		2	・中学生における数学・英語の実施。

			項目	数値目標	数値実績
数値目標と数値実績	②	1	チェックテスト：百ます計算	低学年：２分 中学年・高学年： １分３０秒以内 百ます：５０％	４０％が合格
			チェックテスト：漢字	学年漢字習得率８割 漢字：６／６学年	６／６学年達成
	③		全国学力・学習状況調査及びふくしま学力調査県平均を超える割合	１１／１６ 学年ごとの教科数総計	１２／１６ 学年ごとの教科数総計
	④	1	個人賞・家族賞・学級賞	個人賞：９０％ 家族賞：８０％ 学級賞：８０％ 家読：８５％	個人賞：８０％ 家族賞：８０％ 学級賞：４０％ 家読：６７％
		3	読み聞かせカード取り組み率	70%以上	90%
	⑤	1	桑折学習塾（小学校）参加率	設定なし	醸芳小：８％ 睦合小：３７％ 半田醸芳小：３３％ 伊達崎小：３２％
		2	桑折学習塾（中学校）参加率	設定なし	３年生：４９％ ２年生：５８％

成果・評価	①	1	・中学１年生に川島先生の著書「読書がたくましい脳をつくる」を配付した。川島先生の特別授業はコロナ感染症の影響で開催できなかった。
		2	・中学校においては、全学年で「早寝・早起き・朝ご飯」に特化した学級活動の題材で指導を行い、その様子をホームページにアップし、家庭にも連携を呼びかけたので、関心を高めることができた。 ・小学校は、生活習慣の指導について４月の学級活動の題材に入っていない学校があった。
	②	1	・重点実施期間はどの小学校も、管理職が全担任の活動を参観し、指導の充実が図られた。 ・重点実施期間において町教委の視察訪問をすることにより、４つの小学校の実践レベルを挙げることができた。また、管理職のどちらかが、他校を参観する機会を設けたので、刺激になった。 ・チェックテストは先生方からの要望により、第１回、２回、３回の範囲を決めたことにより、児童の取組意欲が高まり、成績も良くなった。分析したところ、百ます計算は、全児童の４割が合格し、漢字は全学年とも漢字習得率が目標の８割を達成することができた。
		2	・４月の全体研修会と抱き合わせて開催、徹底反復マニュアルに沿って、教員が実際に体験しながら研修した。４月の全体研修会と抱き合わせ、学校ごとに研修会を実施することにより、徹底反復マニュアルの統一を図ることができた。 ・２月に実践の充実が図られている半田醸芳小学校と睦合小学校の様子をビデオに撮り、徹底反復実践事例集のＤＶＤを作成し、各小・中学校に配付した。
	③		・各校の一校一指定授業（ICT活用授業研究会、徹底反復の効果を活かす授業研究会、秋田探究型授業研究会を含む）及び各学校ごとの授業研究会を41回実施した。（※2小学校の学校訪問と幼稚園の保育研究会を除く。） ・各学校において、年間の研修計画に基づいて意欲的に授業研究を行った。 ・6月に東成瀬村の小・中学校への研修視察を各校校長等5名で実施し、その視察から、授業づくりだけでなく授業研究会の進め方などについても有効な知見を得てきた。さらに、11月に醸芳小学校で阿部昇教授を招聘して、授業研究会及び「主体的・対話的で、深い学び」についての講話を行い、阿部昇教授から、子どもの学びを支える助言のあり方と効果的な振り返りについて講話をいただいた。これらの研修を通して、多くの先生方の授業力を高めることができた。

成果・評価	③	3	・ふくしまの「授業スタンダード」を踏まえて、授業研究会などにより授業改善に努めた。また、「桑折町小学校・学びのスタンダード」を活用して学習のしかたについて指導した。
		4	・全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査そしてNRT学力検査の結果を分析し、授業改善の方向性について示すとともに、各校において対策を考案・実施した。また、Hyper-QUテストとNRT学力検査のクロス集計を活用して学級づくりにいかした。
	④	1	・毎月２３日を「家読の日」とし、小学校は４月から１月までの１０回をコンクール対象とした。 ・昨年度までは学年があがるにつれて実施率が下がっていたが、今年度は解消し、高学年も実施率が７割を超えた。保護者の参加率も良くなった。これは各小学校において家読の意義や効果の呼びかけ、図書館便りの発行、町教委からの家読だよりの発信で啓発を継続した表れと見ることができる。個人賞の副賞には、桑折町家読運動イメージキャラクターをデザインしたクリアファイルを贈呈し、次年度の取組への意欲の向上を図った。
		2	・学校司書を中学校に配置するとともに、年間11回ずつ小学校への巡回訪問を実施し、図書の整理や読書活動を促進した。
	④	3	・町からの予算を活用して各絵本棚の充実に努めた。 ・毎週1回、全幼児に絵本を貸し出しており、楽しんで読み聞かせをする家庭が増えている。 ・保育参観日の園長講話の中で、読み聞かせの大切さを知らせた。
	⑤	1	・４小学校において、国語と算数を１学期と２学期に２回実施した。（計８回） ・指導主事、教員ＯＢとともに、国語科、算数科を中心とした学習教材を準備して実施した。参加率は醸芳小は低かったが、他の３校は３割を超えた。

成果・評価	⑤	②	・中学校３年生は、名城塾が講師を務め、標準コース・発展コースに分かれて６月から１２月までの計１６回実施した。昨年度までは２月まで実施していたが、１月になると、私立の入試が始まり、自分で学習に取り組むようになるため、今年度から１２月までの開催に変更した。参加率は４９％で登録した半数は最後まで参加した。１２月に私立高校受験のための面接練習の場を設けたが、学校の面接指導が充実しているせいか、参加者はゼロだった。 ・中学１．２年生は、指導主事、教員ＯＢ、福島大学学生ボランティア等が講師を務め、６月から３月までの計１６回開催した。参加率が１年生が４７％、２年生は５８％であった。部活動、中体連の試合などがあっても、休まずに取り組む姿がみられた。福島大学学生ボランティアの協力は３名で、有効活用することができた。
改善・充実策	①	②	・町の教育課程編成会議で、令和５年度４月に必ず学級活動の題材に組み入れるように、徹底を図った。
	②	①	・特別支援学級の児童もよく取り組んではいるが、障がいの状況に応じて工夫する余地がある。漢字の習得はよくなったが、授業や家庭学習で漢字を使えるようにすることが望まれる。
		②	・まだまだ学校ごとに温度差がある。学校の中でも担任ごとに温度差があるので、互見授業を活用し、レベルをあげていきたい。
	④	①	・家読運動とりくみコンクールも学校により温度差がある。特に人数の多い学校はなかなか取組率が上がらない。保護者や家族へのメディアセレクト運動も行いながら、取組率を上げていきたい。
		③	・絵本の読み聞かせカードへの取り組みは、月によって波があるため、継続的な意欲付けが課題である。
	⑤	①	・醸芳小においては、土曜日はスポーツ少年団やクラブに入っている児童が多いと思われるが、ＰＲを強めながら、さらに参加を呼びかけていきたい。
		②	・次年度も、中学３年生は１２月までの１６回とする。私立高校入試のための面接指導は、参加者ゼロが３年連続だったため、需要なしととらえ、次年度からは実施しない。
担当者自己評価	Ｂ　　良　　い　（目標の通り達成した）		
教育委員評価	Ｂ　　良　　い　（目標の通り達成した）		
第三者評価 委員評価	Ｂ　　良　　い　（目標の通り達成した）		

1　一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

重点施策	(2)	**〔体力向上〕子どもたちが生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成し、県トップレベルの体力・運動能力を実現する。** ① 「早寝・早起き・朝ごはん」町民運動の推進 ② 給食を活用した食育 ③ 運動身体づくりプログラム ④ 運動継続の一校（園）一実践 ⑤ 地域スポーツとの連携	
重点項目と評価	①	1 家庭と連携した基本的生活習慣の定着を図る取組み	a
	②	1 安全・安心な学校給食の提供	b
		2 町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する情報の提供	b
		3 栄養士と連携した「食育授業」の計画的・継続的な実施	b
		4 家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけ	b
	③	1 幼児期運動指針・運動身体づくりプログラムの継続的・効果的実践	b
		2 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実、外部講師による運動遊び、ダンス教室実施	b
		3 体力向上授業研究会の開催	a
	④	1 体力テスト結果に基づく課題（運動能力・肥満児出現率）の明確化	c
		2 業間運動や昼休み等の時間の活用（長距離走の奨励）	b
		3 中学校部活動の充実・適正化	b
		4 自力登校等の日常的な生活運動の呼びかけ	b
	⑤	1 新しい町小学生陸上競技大会参加の奨励	b
		2 スポーツ少年団などの地域スポーツクラブとの連携	c
具体的な取組	①	1 ・体力向上推進委員会による子どもの体力向上プランの制定 ・園だよりや保健だよりによる取り組みの推進	
	②	1 ・安全・安心な学校給食の提供（安定的な食材の確保）	
		2 ・町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する定期的な情報の提供	
		3 ・各学校の栄養教諭、栄養士との連携を図った「食育授業」の計画的・継続的な実施	
		4 ・朝食アンケートによる取組推進 ・家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけ	

<table>
<tr><td>具体的な取組</td><td>③ 1 ・運動身体づくりプログラムの自校化
・幼稚園における戸外遊びの励行：毎日必ず１回（６０分以上目安）
・幼児期運動指針を意識した取り組みの推進(１学年１実践、１学級１実践への取り組み）
2 ・ストリートダンス教室、元気っこ運動教室、心のケア運動教室の実施
3 ・講師にスポーツトレーナーを招聘し町の体力の課題（スピード・全身持久力・筋持久力）に応じた動き作りの指導法研修会
④ 1 ・新体力テストの結果の分析
2 ・各学校における１校１実践
3 ・体育・文化活動事業補助金交付
4 ・自家用車で送られて来る児童・生徒の減少に向けてＰＴＡ総会等で自力登校の推奨
⑤ 1 ・各校において陸上競技の指導および大会参加に向けた意識醸成</td></tr>
<tr><td>数値目標と数値実績</td><td><table>
<tr><th></th><th></th><th>項目</th><th>数値目標</th><th>数値実績</th></tr>
<tr><td>①</td><td>1</td><td>基本的生活習慣への指導についてのアンケート</td><td>適切だと思う保護者が70%以上</td><td>95.70%</td></tr>
<tr><td></td><td>4</td><td>『朝食について見直そう』アンケート(朝食摂取児)</td><td>90%以上</td><td>1回目 100%
2回目 96.7%</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1</td><td>体を動かす遊びを好んでいるかのアンケート</td><td>好んでいると思う保護者が70%以上</td><td>91.40%</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1</td><td>体力テストの４種別（小５・中２・男・女）の合計得点</td><td>全科目県平均超
４／４種別</td><td>県平均超
1／4種別</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>① 1 ・新体力テストからの町の課題である「スピード・全身持久力・筋持久力」の改善に向けて、町として取り組む内容を◎として重点的に取り組んだ。
・幼稚園では、感染症予防に努める中、意識して手洗いうがいの習慣作りに努めることができた。
② 1 ・物価高騰等の影響による食材等の値上げが徐々に出てきた中ではあったが、安全・安心な学校給食提供のため、できる限り町産・県産食材の確保に努めながら、安定的に給食を提供できた。また、「町産食材活用学校給食事業（こおりっ子給食）：7月・11月」や「ふくしま旬の食材等活用推進事業：10月」により、町産・県産食材をふんだんに活用した給食を通じて、子どもたちの地元農業への理解や郷土愛を育む機会を設けることができた。</td></tr>
</table>

成果・評価		2	・町ホームページに、毎日の給食の写真等と毎月の「献立表」「給食だより」を掲載することで、子どもたちやその家族等に対して食育に関する情報を提供し、関心を促すことができた。
		3	・栄養教諭による「食育授業」の計画的・継続的な実施により、子どもたちの食に対する興味・関心を高めることができた。また、毎月の給食残菜の状況を資料にまとめ各学校に情報提供することで、教員等も給食指導に対して積極的になり、残菜が減った学校もみられた。
		4	・家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけとしては、栄養教諭が各小学校の保健委員会の会議に出席し、生活習慣の改善も必要であることを伝え、学校から家庭に働きかけてもらった。また、令和4年度の幼小中の子どもたちの朝食摂取率は平均で98%であったが、朝食での野菜の摂取割合は約52%であったため、更なる呼びかけが必要だったと感じた。
	③	1	・新体力テストからの町の課題である「スピード・全身持久力・筋持久力」の改善に向けて、町として取り組む内容を◎として重点的に取り組んだ。 ・幼稚園においては、学年毎に実践内容を明確にし年間を通して取り組みすることができた。園児は、外部講師を招いての運動教室を楽しみにしており、その後の遊びの糧になっていた。
		3	・伊達市のスポーツマスタートレーナーを講師として招聘し、指導法研修会を実施した。本町の課題である「スピード」「全身持久力」「筋持久力」に特化した動きづくりを体験した。１６名が参加した。
	④	1	・全科目県平均超４／４種別を目標としたが、達成は１／４種別のみ、改善がのぞまれる。特に中学校が低い。また、肥満も多い。
		2	・各校ごとに工夫を凝らし、学校の課題にあった実践がみられた。（朝マラソン・業間マラソン・部活動対抗駅伝）
		3	・大会参加経費や用具購入に充ててもらうことにより、生徒が部活動に専念できる環境づくりができた。
		4	・各小・中学校で家庭に呼びかけた。
	⑤	1	・運営主体を学校から町教委に移行し、社会体育活動として実施した初の小学校陸上競技大会であったが、各校の熱心な取組みにより、全児童数の８割の参加者を得ることができた。また、会場の設営等に多数の保護者の参画があり、社会体育活動として成功したと捉えている。

改善・充実策	①	4 ・朝食摂取率は100%だが汁物、野菜の接種率は70%未満だった。内容を意識した取り組みもしていきたい。
	②	1 ・物価高騰等により、直接、食材等の値上げに影響が出てきているが、しっかりと予算を確保し、町産・県産食材を使用しながら安全
		2 ・引き続き町ホームページなどを活用し、子どもたちの成長のために有益な食育情報を提供していきたい。
	③	3 ・次年度は会津短期大学の助教授を招聘し、さらに課題に視点をあてた指導法を研修する。
	④	1 ・体力合計点と肥満度のクロス集計から、特に中学校の肥満傾向は体力合計点を下げる原因になっているため、体育科と部活動を中心に肥満解消のための取組が必要である。肥満は運動のみならず、食事も関わっているので、夜食を控えたり、栄養バランスの取れた食事指導をしたりする必要がある。
担当者自己評価	B　良　い（目標の通り達成した）	
教育委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）	
第三者評価 委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）	

1　一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

重点施策	**(3)　〔心の教育〕子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。** ① 不登校・いじめ対策 ② 規律・礼節の重視 ③ 体験活動・平和学習・キャリア教育の充実 ④ ふるさと教育（西山城見学など）の拡充		
重点項目と評価	①	1 不登校対策会議・いじめ問題対策連絡協議会等による連携強化・組織的対応	a
	②	1 道徳授業の改善・充実	b
		2 あいさつ運動の推進	b
		3 生活のきまりの指導	b
		4 情報モラル教育の実施	b
		5 ＰＴＡ・青少年育成町民会議との連携	b
	③	1 体験活動や鑑賞教室の実施	a
		2 被爆地に学ぶ平和学習	a
		3 キャリア教育の充実	b
	④	1 ふるさとの自然・文化・歴史等について「見る・知る・学ぶ」学習機会の拡充	b
		2 小学校西山城跡見学学習の実施	b
		3 地域素材や地域人材バンクの効果的な活用	a
具体的な取組	①	1 ・不登校対策会議及びいじめ問題対策連絡協議会の開催	
	②	1 ・各小・中学校で授業参観における道徳科授業の公開	
		4 ・ＩＣＴ支援員の活用	
	③	1 ・校外学習、総合的な学習の時間、土曜学習及び３・４学年を対象とした演劇鑑賞教室 ・幼稚園において、音楽鑑賞会の実施 ・ストレス軽減外遊びプロジェクトへの参加(幼稚園年長)	
		2 ・被爆地広島への児童派遣および派遣児童による報告発表	
		3 ・「キャリアパスポート」小学１年生へ配付し、各校においてキャリア教育に活用（中学卒業まで活用）。	
	④	1 ・各小・中学校おける学習取組の実施	
		2 ・小学校における西山城跡見学学習の実施	
		3 ・地域学校協同活動本部事業の活用	

数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績

成果・評価	①	1	・年３回ある町生徒指導委員会の第１回を拡大生徒指導委員会として、各小・中学校長、生徒指導主事、養護教諭、中学校の学年主任が参加し、不登校対策会議を開催し、新たな不登校出現率ゼロを目指したが、不登校児童生徒はいる状況であった。 ・不登校のみならず、不登校傾向児童・生徒を入れると、さらに多い状況である。中学校はＳＳＲが機能を果たしている。ＡＹＵＭＩでは小学生が復帰できた。 ・６月にはいじめ問題対策連絡協議会を開催した。各機関が連携を図ることにより、いじめの認知件数は増加したが、重大事案はなかった。
	②	1	・各小・中学校で授業参観に道徳科の授業を公開する機会を設け、道徳科への保護者の関心を高めた。また、対話し議論する道徳になるように、他面的・多角的に考えることができる発問を工夫するよう指導した。
		4	・株式会社スキット派遣のＩＣＴ支援員を活用し、授業で情報モラルの指導を行った。また、スキットから提供されている「広教情報モラルＤＶＤ」も活用した。 ・今のところ、タブレット端末機の持ち帰り等でトラブルはない。
	③	1	・マリンバ奏者の鴨田早希氏、飯野未奈美氏を招き各学年鑑賞した。音楽に合わせて手拍子や踊り、歌う場面もあり園児の発達や興味に合わせての演奏だった。
		2	・広島平和記念式典における自治体枠の受入れが再開したことから、３年ぶりの児童の現地派遣となった。コロナ禍での実施となったため、事務局はもとより、児童及び保護者の協力による徹底した健康管理と感染症対策により、無事に派遣を完遂した。コロナ禍、またロシア・ウクライナ戦争、さらにテロ対策で厳戒態勢が敷かれた中での広島訪問は、平和の尊さと、その意義を多くの人に伝えることの大切さを、児童の心に深く刻んだ大変価値のある体験となった。帰町後は、各校で意見発表を行い、年度末に事務局で事業報告書をまとめ小学５・６年生に配付。派遣事業の成果をに周知することで、次年度の取組みへ繋げた。 派遣児童は４名（各校６年生１名ずつ）
	④	1	・各小・中学校において、総合的な学習の時間のカリキュラムに沿って、学習が進められた。学校によっては、生涯学習係の学芸員、地域住民等をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動を通して学びを深めた。

成果・評価	④	2	・どの小学校も６年の総合的な学習の時間に１０時間を目安に組み入れて、現地学習、学芸員による学習を行った。 ・西山城のイベントで案内人を引き受けた小学生がいた。
		3	・ファミリー文庫お話し会や夏野菜の植え付け体験、サツマイモ等の収穫体験をサポートいただき園児の絵本、野菜に関する興味の芽生えに成果を得られた。
改善・充実策	①	1	・ＱＵ検査の結果分析を十分活かして、減少するよう対応する。成就感を大切にし、自己肯定感の向上も重要と考える。
	②	4	・今のところ、タブレット端末機の持ち帰り等でトラブルはないが、さらにモラルの教育は強めていくことが大切である。
	③	1	・好評だったので、来年度も依頼したい。
	④	2	・西山城のイベントでさらに案内ができる小学生を増やしたい。
		3	・サポーターの方の読み聞かせは地域の方との触れ合いにもなっている。また、わらべ歌やお手玉なども取り入れたファミリー文庫はその後の遊びの糧になっていた。来年度も継続したい。
担当者自己評価	B　良　い　（目標の通り達成した）		
教育委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）		
第三者評価 委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）		

2　一人一人を大切にする温かい教育

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(1)　〔特別支援教育〕特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。
①　特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用
②　関係機関との連携による切れ目のない支援体制の確立</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1</td><td>教育的ニーズに応える学びの場の整備</td><td>a</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>指導体制の整備</td><td>a</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td>校内での連携</td><td>a</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>関係機関との連携</td><td>a</td></tr>
<tr><td rowspan="3">具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・ユニバーサルデザインの視点を生かした環境設定・指導の工夫</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・特別支援コーディネーターを中心とした実効的な支援体制づくり</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="2">・園内での支援の実態把握</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・保育所や小学校との情報交換会(年度末)や関係機関との連携</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・ニーズに合った理解しやすい環境構成を取り入れ、個々の実態に合った声かけや見守る等の援助の実施</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・保護者支援、担任支援を担い、必要に応じた教育相談の実施、現場での状況把握を行う等きめ細やかに対応することができた。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="2">・5月連休明けに支援の実態把握を実施した。健康面で留意しなければならない幼児も含まれる。職員が共有していることで幼児の変化に気づくことができ、有効である。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>2</td><td colspan="2">・保育所や小学校との情報交換は勿論、保護者を通して関係機関と連携をしたり健康福祉課と情報交換をする等、切れ目のない支援を行った。今年度は主任預かり支援員とも共有することができ、援助について成果があった。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td>②</td><td>2</td><td colspan="2">・効果的だったので来年度も実施したい。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="4">A　　大変良い　（目標を上回って達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="4">A　　大変良い　（目標を上回って達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

2　一人一人を大切にする温かい教育

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="3">(2)　〔不登校対応〕子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。
①　不登校が起きない学級・学校づくり
②　ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ・ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援
③　教育支援センター等による教育機会確保と学校復帰支援</td></tr>
<tr><td rowspan="8">重点項目
と評価</td><td rowspan="2">①</td><td>1　魅力あるよりよい学級・学校づくりの推進</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2　学校生活アンケート（ＱＵ）等による子ども理解と実態把握、結果の活用</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>1　スクールカウンセラー（SC）による教育相談の推進</td><td>c</td></tr>
<tr><td>2　スクールソーシャルワーカー（SSW）による家庭支援と関係者の連携推進</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="3">③</td><td>1　教育支援センター（ＡＹＵＭＩ）における児童生徒の居場所づくり</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2　関係機関との連携による多様な教育機会の確保</td><td>c</td></tr>
<tr><td>3　スペシャルサポートルーム（SSR、特別教室登校）での支援</td><td>c</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>具体的な取組</td><td>①</td><td colspan="2">1　・特色ある自校ならではの学校経営・運営に努める。
2　・町としてのＱＵ検査の分析と情報共有を図る。
・各小・中学校でＱＵ検査の分析をもとに生徒指導委員会の開催。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td colspan="2">1　・ＳＣの積極的な活用を図る。
2　・ＳＳＷの積極的な活用を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td colspan="2">1　・各学校に活用を呼びかける。
3　・教育委員会としての支援協力。</td></tr>
<tr><td>数値目標と
数値実績</td><td colspan="3"><table><tr><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td colspan="2">1　・校長、教頭の教職員人事評価制度の面談等を活用して、取組を評価し、指導した。
2　・町としてのＱＵ検査の分析を行い、校長会議で開示し、町全体の傾向について情報共有を図った。小学２年生の結果が良くなかったので、対処するよう指導した。</td></tr>
<tr><td></td><td>②</td><td colspan="2">1　・町雇用の小学校のＳＣについては、各学校からのニーズがあり、規定の月曜日以外にもカウンセリングの要望が多かった。
・中学校配置の県のＳＣについてはあまり活用が図られなかった。</td></tr>
</table>

成果・評価	②	2	・ＳＳＷと連携し、不登校小学校児童が学校には行けなかったが、子ども食堂に繋げていただき、自分の居場所を見つけることができた。また、中学校においては多くの家庭、保護者との教育相談、家庭訪問を実施できた。改善傾向が見られる。
	③	1	・小学生１名、中学生１名の利用があった。指導員の手厚い対応により、小学生は後半復帰できた。中学生は無事に卒業することができた。
		3	・多くの不登校、不適応生徒が利用した。支援員が寄り添い、学習や生活のサポートを行ったが、学年の意向でまちまちな対応だった。
改善・充実策	②	1	・中学校には県から配置されているので、例えば全員面談などを行い、せっかく配置のＳＣの活用をさらに図っていきたい。
	③	3	・ＳＳＲの意義、活用について、学年ではなく学校として方向性を決めておく必要がある。
担当者自己評価	B　良　い（目標の通り達成した）		
教育委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）		
第三者評価 委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）		

3　新しい時代に必要となる資質・能力の育成

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="3">(1)　〔英語教育〕子どもたちに英語の４つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。
①　英語指導助手・指導協力員の活用
②　英検受験奨励・費用助成
③　英語体験活動の実施</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重点項目
と評価</td><td>①　1　英語指導助手（ＡＬＴ）１名の配置・活用</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2　英語指導協力員２名の配置・活用</td><td>b</td></tr>
<tr><td>②　1　英検受験奨励・費用助成</td><td>b</td></tr>
<tr><td>③　1　中学生英語体験活動</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="3">具体的な取組</td><td colspan="2">①　・小学校の外国語活動と外国語科及び中学校の英語について、その授業を充実させるために、ＡＬＴと英語指導協力員、そして県から配置された外国語教育推進リーダーの指導体制の工夫。
・幼稚園におけるALTによる『ALTと遊ぼう』の実施(年長)
・幼稚園における外部講師『英語で遊ぼう』の実施(年少、年中)</td></tr>
<tr><td colspan="2">②　・桑折学習塾における中学１，２年生を対象としての英検練習の実施。
・英検受験奨励として、受験料の半額補助。</td></tr>
<tr><td colspan="2">③　1　・次年度からの実施に向け、活動内容を検討</td></tr>
<tr><td>数値目標と
数値実績</td><td colspan="3"><table><tr><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr><tr><td>②</td><td>英語検定合格者</td><td>72名/全校生286名
※受験者97名</td><td>53名/全校生274名
※受験者71名</td></tr></table></td></tr>
<tr><td rowspan="3">成果・評価</td><td colspan="2">①　・外国語教育の指導体制の構築により、幼稚園、小・中学校の外国語（英語）教育を円滑に進めることができた。そして、小学校の外国語活動、外国語科のおいて、そのねらいに即して、会話のための場の設定を工夫することにより、児童が意欲的に活動し「話す」「聞く」などの力を高めることができた。
・幼稚園では年少時から『英語で遊ぼう』で英語に触れているため、年長時の『ALTと遊ぼう』の活動を喜んでいる。ALTへの挨拶を英語で話す園児の姿も見られている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">②　・桑折学習塾において、中学１，２年生を対象として英検の問題練習を行った。
・英語検定受験者数は、全校生徒数の25．9%。合格者数は、全校生徒数の19.3%であった。受験者数が増えていない現状がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">③　・活動内容が、第２学年のブリティッシュヒルズ宿泊研修（１泊２日）に決定。</td></tr>
</table>

改善・充実策	① ・小学校での意欲を高めるコミュニケーション中心の学習から、中学校での文の構成を踏まえた確実に4技能を高める学習にしっかりつなげるための工夫が必要である。 ・幼稚園においても成果があることから、来年度も英語活動を実施する。
担当者自己評価	B　良　い　（目標の通り達成した）
教育委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）

3　新しい時代に必要となる資質・能力の育成

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="3">(2)　〔情報活用能力〕子どもたちにコンピュータ操作の基本やプログラミング的思考、情報モラルを身に付けさせ、情報技術を用いた問題発見・解決力の向上をめざす。
①　１人１台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業
②　家庭でもつながる通信環境を活用するオンライン授業や家庭学習
③　ＩＣＴ支援員配置・活用と教職員研修
④　ＩＣＴ教育環境の整備と充実</td></tr>
<tr><td rowspan="8">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1　主体的・対話的で深い学びの効果的実現と情報活用能力の育成をめざす授業の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　プログラミング教育の推進</td><td>c</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1　双方向型情報通信による家庭とのオンライン授業の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　他校等との交流授業の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1　ＩＣＴ環境整備・活用委員会による協議・研修等の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　ＩＣＴ支援員（ＧＩＧＡスクールサポーター）の配置と活用</td><td>b</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1　ＩＣＴ教育機器・設備のメンテナンスと更新</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="8">具体的な取組</td><td>①</td><td colspan="2">1　・タブレット端末機の活用、ロイロノートスクールのさらなる活用、メクビット活用による質の高い授業の実施</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">2　・各教科による実践で論理的思考力を育む。</td></tr>
<tr><td>②</td><td colspan="2">1　・長期休業におけるGoogle　works　やロイロノートスクールの利用
・不登校児童へ授業のオンライン配信の実施及びコロナ対策として外国語の授業についてオンライン実施。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">2　・西山城学習の発表会を学校同士でのオンライン交流実施。</td></tr>
<tr><td>③</td><td colspan="2">1　・活用検討委員会の開催。
・活用委員会主催の先進校の視察研修会実施。
・活用委員会主催の授業研究会実施。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">2　・ＩＣＴ支援員を週１日ずつ各小・中学校に配置。</td></tr>
<tr><td>④</td><td colspan="2">1　・学校からの不具合等の報告対応。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

成果・評価	①	1 ・新しく転勤してきた教員にはＩＣＴ支援員が指導し、全ての教員がロイロノートスクール、メクビットを使用することができた。児童生徒も新たに追加された機能の「共有ノート」を使えるようになり、学びを深めることができた。
		2 ・ペッパー君のようなロボットなどの活用はできないが、各教科の中で、考えるための技法を適宜活用・発揮させた。
	②	1 ・教員のオンラインの技術が向上し、ある小学校においては不登校の児童やコロナ感染で欠席した児童に授業を配信し、学びの連続性を図ることができた。 ・長期休業においては、Google works やロイロノートスクールを利用し、健康観察や宿題の取組状況の把握ができた。
		2 ・西山城学習の発表会について、学校同士でのオンライン交流を実施した。
	③	1 ・年２回（５月と２月）に活用検討委員会を開催した。 ・先進校は郡山市立桑野小学校を各学校代表８名で視察し、ＩＣＴの取組状況について研修し、それぞれの学校の授業に活かすことができた。 ・授業研究会は睦合小学校で開催し、国語科でどのようにＩＣＴを活用するかについて授業公開と事後研究会を行った。多くの教育員が参加し、研修を深めた。
		2 ・醸芳中学校は第１と第３水曜のみだが、他は毎週１日支援員が訪問した。授業の支援はもちろん研修会の講師などを努め、児童生徒のみならず教員のＩＣＴ活用能力の向上に寄与した。 ・年次更新についても、各学校の更新を担ったのでスムーズな更新ができた。
	④	1 ・ＩＣＴ支援員等と連携しながら、不具合等には迅速に対応し、授業の妨げにならないように努めた。
改善・充実策	①	2 ・さらにプログラミング教育を発展させるには有料にはなるが、ソフトを使用することも考えていく必要がある。
	③	1 ・次年度も先進校視察と授業研究会を行い、教員のスキルアップを図る。
担当者自己評価	B　良　い（目標の通り達成した）	
教育委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）	
第三者評価 委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）	

3　新しい時代に必要となる資質・能力の育成

重点施策	(3)	**〔各種教育課題〕子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育んでいくことをめざす。** ① 防災・安全教育 ② 持続可能な開発のための教育 ③ 感染症対策も含む健康教育	
重点項目と評価	①	1 防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底	b
		2 減災の視点に立った実効性ある避難訓練等の実施	b
		3 通園通学指導による交通安全啓発活動の実施	b
		4 東日本大震災の体験等に基づいた安全教育・防災教育・放射線教育の充実	b
	②	1 ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の達成をめざす教育活動	b
	③	1 学校における感染症対策の徹底	b
		2 正しく理解し、判断・行動できる力の育成	b
		3 健康な生活習慣の実践	b
具体的な取組	①	1 ・幼稚園において、月に１度の安全点検と遊びの中で行う安全指導	
		2 ・各学校の災害リスクに応じての避難訓練実施。 ・幼稚園において、火災、地震、弾道ミサイル時の避難訓練及び不審者対応訓練の実施と反省、改善	
		3 ・各校において、交通安全教室の実施。 ・桑折町ＰＴＡと連携し自転車のヘルメット着用啓発活動。 ・幼稚園において、第Ｉ駐車場での立哨指導	
		4 ・各学校で策定する「放射線教育計画」を基に放射線について理解を深める学習の実施。	

<table>
<tr><td rowspan="4">具体的な取組</td><td>③ 1 ・新型コロナウイルス感染症対策をふまえた「教育活動実施にあたってのチェックテスト」を作成し、各学校（園）に十分に確認しながら感染症対策を行うとともに、子供たちの学び・成長を保障するために必要な教育活動を実施することができた。
1 登園、登校「検温・健康状態確認、きめ細やかな相談」
2 学校（園）生活「基本的な感染症対策の実践と習慣化」
3 消毒、清掃「環境衛生を良好に保つ」
4 健康教育「健康な生活習慣、感染症についての理解、偏見差別の防止」
5 教育相談「子供・保護者の不安に応える組織的対応」
6 給食「衛生管理の徹底、安全な配膳と食事」
7 部活動「十分な感染防止をしながらの活動」
・「子供・教職員に感染者が発生した場合の対応について」「登園・登校を見合わせていただく場合とその対応（保護者宛）を作成、配付した。</td></tr>
<tr><td>② 1 ・桑折町内の5つのすべての小中学校で、「ふくしまゼロカーボン宣言事業」に取り組んだ。</td></tr>
<tr><td>③ 2 ・新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、判断・行動できる力を育んだ。
【・感染症の特徴や予防（健康確認・手洗い・咳エチケット・密閉・密集・密接を避ける）】
【・十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事で抵抗力を高める。】
・文部科学省資料「新型コロナウイルス感染症の予防」等の活用
・感染者(濃厚接触者)に対する偏見・差別が生じないよう人権に配慮した指導を行った。</td></tr>
<tr><td>3 ・幼稚園において、『早寝早起き朝ごはん』の周知
・中学校においては十分な感染対策をしながら部活動の充実。</td></tr>
</table>

数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	② 1	ふくしまゼロカーボン宣言事業への参加校	5校／5校	5校／5校

成果・評価	①	1	・ヒヤリハットマップを確認することで学級内または戸外の安全な環境への視点が共通となり、危険を察知する力の育成や安全確保に繋がっていた。
		2	・各学校の災害リスクに応じて、避難訓練を行った。水害を想定いて避難訓練を行った学校もあった。 ・幼稚園では、職員会議で打ち合わせを行い、実施後の職員会議で各学年の反省を伝え、不具合がある時は改善策を考え次の計画に生かし持効性ある訓練に努めた。
		3	・各校において、交通安全教室を実施するとともに、児童生徒の登校時に立哨指導を行い、交通安全の意識を高め事故防止に努めた。 ・桑折町ＰＴＡと連携し自転車のヘルメット着用の啓発活動を行った。 ・幼稚園では、第1駐車場で立哨指導をすることで危険運転の抑止力に繋がっていた。
		4	・各学校で策定する「放射線教育計画」を基にして、主に学級活動の時間に、各学年の実態に応じて放射線について理解を深める学習を行った。 ・3月11日には、各学校において追悼の集会を行った。
	②	1	・桑折町内の5つのすべての小中学校で、「ふくしまゼロカーボン宣言事業」に取り組んだ。
	③	1	・なるべく三密を避け、換気(二酸化炭素濃度計を利用）、園内消毒、手洗い・うがい、黙食、マスク着用を行い感染対策に努めた。 ・「教育活動実施にあたってのチェックテスト」を基に各学校（園）が十分に確認しながら感染症対策を行ったが、中学校においては修学旅行がらみでクラスターが発生した。小学校（園）においては第７波、第８波により若干の感染者が出たが、各学校（園）の速やかな対応によりクラスターの発生はなかった。
		2	・道徳科において、県の人権・差別に関する資料を活用し授業を行い、偏見・差別についての理解を深めた。
		3	・幼稚園では、園だよりや保健だより、園長講話を通して免疫力を保つ習慣について知らせたことで子どもたち及び保護者の意識に多少なりとも繋がったと思われる。 ・中学校においては十分な感染対策をしながら部活動の充実を図った。また、中学校では、陸上大会や中体連等で素晴らしい成績をおさめた。

改善・充実策	①	1 ・来年度も今年度同様、安全安心な環境作りに取り組んでいきたい。また、幼稚園では安全対策としてヒヤリハットマップの掲示や書き込みが有効だったため継続したい。
		3 ・中学校の自転車のヘルメットについて、小学校及び桑折町ＰＴＡと連携しつつモデルチェンジを図っているところである。この動きを進めて、児童生徒が進んで着用したくなるようなヘルメットの選定・購入を進めていきたい。
	③	1 ・次年度は５類になる予定ではあるが、感染症対策は継続し（マスクの着用は柔軟に）ながら、教育活動の完全実施を目指す。
		2 ・新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、判断・行動できる力の育成は今後も継続する。
		3 ・スマホ、テレビ、ゲームなどメディアに触れる時間が長い子供ほど学力は低く、体力合計点も低くなっている。よって、町ＰＴＡ連絡協議会とも連携を図り、メディアコントロールについて理解を深めていく必要がある。
担当者自己評価	B　良　い　（目標の通り達成した）	
教育委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）	
第三者評価 委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）	

4　幼児教育の質の向上と小中学校への接続

重点施策	(1)　**〔保育改善・充実〕幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子どもたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。** ①　保育改善・充実に向けた研修会や視察の拡充		
重点項目と評価	①　1　環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実		b
	①　2　教職員の資質・専門性の向上		b
具体的な取組	①　1　・幼児自ら取り組めるような環境の構成と教師のかかわり ・子どもの気付きや試行錯誤を大切にした考える過程を重視した保育		
	①　2　・年齢別保育研究会・園内研修の実施		
数値目標と数値実績	項目	数値目標	数値実績
成果・評価	①　1　・コロナ禍の中、感染症予防をしながら興味関心が持てる環境作りと主体性を重視した援助を心がけた。 ・発達や理解力の差はあるが、一人一人の幼児が持つ良さを引き出し、認めあえるようにかかわることができた。		
	①　2　・感染症予防対策を講じながら各学年の保育研究会を実施し『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を意識しながら『幼児の見取り』や『指導の振り返り』の大切さを勉強することができた。 ・学年別に互見研修を実施し保育終了後、教材研究をした。環境作りや言葉かけ等良いところを保育に取り入れ子どもたちに還元できた。		
改善・充実策	①　1　・来年度も保育の質の向上に取り組んでいきたい。		
	①　2　・来年度は県北ブロック研究会公開保育をすることから協議主題のテーマについての研究や6月、9月計2回の事前研修に取り組んでいきたい。		
担当者自己評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）		
教育委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）		
第三者評価 委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）		

4　幼児教育の質の向上と小中学校への接続

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="3">(2)　〔小中学校との連携〕幼稚園教育と小中学校教育との円滑な接続を図ることにより、子どもたちの成長が効果的に積み重ねられることをめざす。
①　保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育・授業研究会
②　幼児・児童・生徒の交流活動</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1　保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　幼稚園・小学校の連携の促進</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>3　民設民営による認定こども園との連携による教育の充実</td><td>b</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1　幼児・児童・生徒の交流活動の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="4">具体的な取組</td><td>①</td><td>1　・幼小連接保育研究会の実施</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>2　・「幼保小架け橋プログラム検討委員会」を立ち上げ、さらなる連携を図る。</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>3　・認定こども園開園に向けた運営内容の確認・協議</td><td></td></tr>
<tr><td>②</td><td>1　・幼保交流会、幼小交流会の実施
・各小学校ごとに交流会の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">成果・評価</td><td>①</td><td>1　・醸芳小学校の校長先生に効果的な幼小連接についてご指導をいただき小学校教育と幼稚園教育の違いや共通点について理解を深めることができた。</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>2　・幼保小架け橋プログラム検討委員会において、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを持ち寄り、どのような連携ができるかについて話し合いを行った。どちらも初めてめにするカリキュラムだった。</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>3　・認定こども園については、令和６年４月開園に向け、設置事業者と運営内容について確認するとともに協議を行った。</td><td></td></tr>
<tr><td>②</td><td>1　・保育所や小学校との交流会を目標通り実施したが、感染症予防のため、保育所児を招いて実施する幼稚園体験活動の中止となった。
・各小学校では、コロナ禍で十分な交流会はできなかった。</td><td></td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td>①</td><td>2　・次年度はさらにどのような連携ができるか、それぞれの立場から意見を出し合い、スタートカリキュラムの改善・修正を図る。年２回開催する。（６月・２月）</td><td></td></tr>
</table>

改善・充実策	② 1 ・中止となった幼稚園体験活動だが、普段からの交流活動をしておくことや形を変えて幼稚園入園を楽しみにできるような工夫をすると良かった。年長が作った折り紙をプレゼントするとかビデオレターを贈るとか何か良い方法を模索すればよかった。
担当者自己評価	B　良　い（目標の通り達成した）
教育委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）

5　家庭への手厚い子育て支援

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="3">(1)　〔経済的支援〕「待機児童ゼロ」を堅持するとともに、子育てに係る家庭の経済的負担を軽減することにより、すべての子どもが平等に充実した保育・教育を受けられることをめざす。
①　保育所や預かり保育の「待機児童ゼロ」を堅持していくための受け入れ体制の整備
②　給食費助成・制服贈呈・就学援助・奨学資金貸与・病児病後児保育利用料助成</td></tr>
<tr><td rowspan="9">重点項目
と評価</td><td rowspan="3">①</td><td>1　人的・物的な受け入れ体制の維持と充実</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2　乳幼児保育の民設民営による認定こども園への移行</td><td>b</td></tr>
<tr><td>3　保育体制の充実</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="6">②</td><td>1　給食費の補助</td><td>a</td></tr>
<tr><td>2　入園・入学幼児児童生徒への祝い品（制服）支援事業の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td>3　児童生徒への就学援助支給</td><td>b</td></tr>
<tr><td>4　奨学資金制度の利用促進</td><td>b</td></tr>
<tr><td>5　在園・在所児の病児・病後児保育利用の支援</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="8">具体的な取組</td><td rowspan="3">①</td><td colspan="2">1　・会計年度任用職員募集や派遣委託を行い、受け入れ体制の維持と充実を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2　・県・事業所と連携を密にし、認定こども園建設の補助金に必要な書類の提出や運営内容の確認、職員雇用に向けた協議の実施。</td></tr>
<tr><td colspan="2">3　・預かり・放課後児童保育支援員研修会及び児童館長による巡回指導の実施、特別な支援を必要とする園児・児童に対する保育の充実。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">②</td><td colspan="2">1　・給食費の補助（幼稚園全額、小中学校半額補助）</td></tr>
<tr><td colspan="2">2　・翌年度新入学児童生徒、幼稚園入園児および当年度転入学児童生徒へ町内各学校・幼稚園の制服を入学祝いとして支給。特別支援学校進学者には祝金を支給。</td></tr>
<tr><td colspan="2">3　・要保護・準要保護児童生徒に認定された保護者に対し、学用品費等を各学期末に支給。</td></tr>
<tr><td colspan="2">4　・ニーズに対応できるよう貸付金原資の桑折町奨学基金額の検討</td></tr>
<tr><td colspan="2">5　・在園・在宅児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施</td></tr>
</table>

			項目	数値目標	数値実績
数値目標と数値実績	①	1	待機児童ゼロ	0	0
	②	2	幼稚園入園祝い品（制服）支給件数	R３年度実績 63件	R４年度実績 59件
		3	病児・病後児保育利用件数	R３年度実績 ３件	R４年度実績 ２件
	②	4	奨学資金（総）貸付者数	25人	29人

成果・評価	①	1	・待機児童ゼロの継続を目指し、人材確保及び保育の充実に努める。
		2	・県や事業所と連携を密にしたことで、認定こども園建設の補助金に必要な書類等の提出することが出来た。
		3	・運営上の課題や子どもや保護者への対応等に早期に対応することができた。
	②	1	・子育て支援策の一環として、給食費の幼稚園児全額町負担、小中学生半額町負担とした。さらには、新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を活用して、小中学生の給食費についても下半期分を実質無償とし、コロナ禍においての物価高騰等の影響を受けている子育て世代の経済的負担軽減を図ることができた。
		2	・小学校：新入学６９名・転入学１名、中学校：新入学６７名・転入学３名に対し制服支給を行い、家庭の負担軽減を図った。祝金対象の特別支援学校入学者は、中学部１名。
		3	・要保護・準要保護児童生徒に認定された保護者に対し、学用品費等を援助することで、経済的支援を行い、困窮家庭の児童生徒の就学機会を確保した。
		4	・奨学資金の新規貸付１０件であった。
		5	・病児・病後児保育利用料助成事業を行い、保護者の経済的負担の軽減を図った。
改善・充実策	①	1	・待機児童ゼロの堅持を図るため、人材確保の及び保育の充実に努める。
		2	・「認定こども園」開園に向け、今後も県と事業所等と連携を図っていく。
	②	1	・食材費が値上がりしている中であっても、子育て支援策の一環として、給食費の全額無償化を継続していく必要がある。
		5	・在園・在所児の病児・病後児保育利用助成事業の申込件数が少ないため、事業内容の周知に努める。

担当者自己評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
教育委員評価	A　　大変良い　（目標を上回って達成した）
第三者評価 委員評価	A　　大変良い　（目標を上回って達成した）

5　家庭への手厚い子育て支援

重点施策	(2)	**〔家庭教育支援〕家庭の教育力向上に向けた支援を行うことにより、それぞれの家庭で子どもたちが健やかに成長することをめざす。** ① 家庭の教育力向上支援	
重点項目と評価	①	1 家庭教育についての保護者への啓発	b
		2 情報提供や相談体制整備	b
		3 子育て支援施策についての情報発信の強化	b
具体的な取組	①	1 ・『頭のよい子に育てるために今すぐ絶対やるべきこと』(川島隆太博士著)を活用した家庭の教育力向上を図る。 ・園長講話、学級懇談、家庭教育学級の実施	
		2 ・個別懇談や必要に応じた教育相談の実施 ・幼稚園での『園生活の様子』の配布(クラスの様子、個別の様子)及び園生活の様子を知らせるホームページの更新	
		3 ・町ホームページを活用し、認定こども園建設に伴う保護者等への周知や、園児・児童募集等を広報等で周知。	

数値目標と数値実績			項目	数値目標	数値実績
	①	1	本の配付件数	R5.3.31現在 ０歳児　３７件	３１件
	①	2	幼稚園評価『幼稚園での様子を伝えているか』	70%以上	90.4%
		2	幼稚園評価『相談に親身になって対応してくれているか』	70%以上	90.5%
		2	園での町ホームページ更新	幼稚園稼働日 90%以上	幼稚園稼働日 100%

成果・評価	①	1 ・妊婦全戸訪問の際に川島隆太先生の本を配付し、家庭の教育力向上に努めた。 ・幼稚園において、園長講話は9月の参観時に実施できたが、学級懇談、家庭教育学級は感染症予防のために中止となった。
		2 ・家庭に対しⅠ期からⅤ期に分けて期毎にクラスの様子や個別の様子についてファイルに綴り知らせた。 ・HPを利用し、幼稚園で過ごしている園児の様子を知らせた。
		3 ・町ホームページに掲載を行い、町民や保護者等への情報発信に努めた。
改善・充実策	①	1 ・感染症状況を見ながら実施したい。
		2 ・園生活の様子ファイル、HP更新について継続する。

担当者自己評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
教育委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	A　　大変良い　（目標を上回って達成した）

6　小中学校のあり方の検討

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="3">(1)　〔少子化への対応〕小学校が小規模化している現状を踏まえ、今後のあるべき姿を検討し、その実現をめざす。
①　学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析
②　小学校統合についての様々な観点からの検討</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1　小学校児童数の現状と今後の推移についての把握</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　学級編制の見通しについての分析</td><td>b</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1　教育委員会のこれまでの方針の確認</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　小学校統合についての計画的・総合的な議論の推進</td><td>c</td></tr>
<tr><td rowspan="3">具体的な取組</td><td>①</td><td colspan="2">1　・現状と今後の推移についての調査</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">2　・今後の学級編制見通し分析</td></tr>
<tr><td>②</td><td colspan="2">2　・協議の場の設置検討</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td colspan="2">・児童数の現状と今後の推移の把握および学級編制の見通し分析を行い、今後の推移について把握検討を行った。</td></tr>
<tr><td></td><td>②</td><td colspan="2">・小学校統合を見通した場合において学校現場での検討が必要であることから、次年度において、園長・校長会と合わせて協議を実施することとした。また、関連性があることから現有施設の利活用方針についても合わせて検討する必要があるという結論に至った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">改善・充実策</td><td>①</td><td colspan="2">・現状把握及び分析を続けていく。</td></tr>
<tr><td>②</td><td colspan="2">・園長・校長会において、小学校あり方について、現場からの検討・協議を行う。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

6　小中学校のあり方の検討

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="3">(2)　〔学校運営の改善〕今後求められる教育を実施していくために必要な学校運営のあり方について検討し、その実現をめざす。
①　小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入などの検討
②　学校における働き方改革の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="5">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1　小中一貫教育の導入の検討</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入の検討</td><td>c</td></tr>
<tr><td></td><td>3　学校支援ボランティアの活用</td><td>c</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1　桑折町学校行事等検討委員会よりの提言を受けての対策の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　「桑折町立学校に勤務する教育職員が業務を行う時間の上限に関する規則」の趣旨の実現に向けた取組</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="4">具体的な取組</td><td>①</td><td>1　・小中一貫教育の導入検討</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>2　・コミュニティ・スクールの導入検討</td><td></td></tr>
<tr><td>②</td><td>1　・学校での陸上競技大会を町社会体育行事として移行</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>2　・校務支援システムの利活用</td><td></td></tr>
<tr><td>数値目標と
数値実績</td><td colspan="3"><table><tr><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td colspan="3">①　・6（1）〔少子化への対応〕での現状と今後の推移を調査分析することにより、今後検討していく。
②　1　・学校で行われていた陸上競技大会については、新「桑折町小学生陸上競技大会」として、町教育委員会が主催とし、小学５・６年生134名が参加し行われた。
2　・校務支援システムの利活用により、勤務時間の把握とデジタル化による業務の効率化による教職員の勤務軽減を行った。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

7　教育施設・設備の充実

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(1)　〔学校施設〕安全・安心で子どもたちの学びを支える良好な教育環境の維持・向上の方策を確立し、その実現をめざす。
①　学校施設・設備について、長期的な維持・管理・整備計画の作成</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1　安全・安心な教育環境の確保と施設・設備の充実</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2　学校教育施設・設備の維持管理と今後の点検・整備のあり方についての検討</td><td>b</td></tr>
<tr><td>具体的な取組</td><td>①</td><td colspan="2">1　・施設の老朽化による修繕については年次計画的に実施
2　・学校施設等長寿命化計画の検討・策定</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td colspan="2">1　・小・中学校における施設の修繕工事について、次のとおり実施した。令和４年度は、災害による復旧工事についても、各小学校及び中学校で実施した。
◎　主な修繕工事等
【醸芳小学校】屋上防水シート改修工事、フェンス工事、特別支援学級増設工事、消火ポンﾌﾟ設備更新工事、校舎修繕工事
【睦合小学校】男子トイレ洋式化工事、浄化槽災害復旧工事、火災報知設備修繕工事
【半田醸芳小学校】体育館消防設備修繕、屋根改修工事、北校舎及び校庭災害復旧工事、インターロッキングブロック復旧工事
【伊達崎小学校】災害復旧工事、特別支援学級移設工事
【全小学校】バスケットゴール修繕撤去工事、蓄電池交換工事
【醸芳中学校】体育館照明器具修繕、体育館ステージ天井改修工事、貯水槽ポンプ更新工事、地下タンク計器等更新工事、蓄電池交換工事
2　・長寿命化計画策定に向けて、過去の維持費の積み上げ及び今後の見通し等について調査・分析を行った。
・今後の小学校のあり方についても、検討することが必要なことから連携しながら実施する。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td>①</td><td colspan="2">・施設について、築年次が過ぎ、老朽化が進んでいることから、施設の維持については、様々な検討が必要である。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

7　教育施設・設備の充実

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(2)　〔給食センター〕安全・安心でおいしい給食を安定供給するとともに、食育および地産地消の拠点としての機能を果たす施設としてのあり方を検討し、その実現をめざす。
①　給食センター施設・設備の計画的な維持・管理・整備
②　今後の管理・運営のあり方の検討</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重点項目
と評価</td><td>①　1　施設・設備の計画的な維持・管理・整備の推進</td><td>b</td></tr>
<tr><td>②　1　給食センターの在り方の見直し</td><td>c</td></tr>
<tr><td>具体的な取組</td><td colspan="2">①　1　・設備更新計画に基づく機器類の更新
②　1　・給食センターのあり方についての研究</td></tr>
<tr><td>数値目標と
数値実績</td><td colspan="2"><table><tr><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td colspan="2">①　1　・更新計画に基づき、令和4年度は、自動フライヤー（揚げ物等調理機）、食器自動整理装置（洗浄食器整理機）、ユニクリーン（靴乾燥機）、消毒保管機（食材カゴ消毒機）の更新を行った。経年劣化等による不具合等が解消され、安全に給食を提供することができた。
②　1　・給食センターの管理運営について、現在、調理業務のみを民間に委託し、施設の管理運営は直営となっている。センターのあり方について、具体的な検討はできなかったが、近隣の状況把握等に努めた。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td colspan="2">①　1　・令和5年度から8年度の設備機器更新計画を立て、今後4年間での更新により機器類の充実を図り、安全安心な給食の提供に努める。
②　1　・現時点においては、機器類を更新しながら施設の維持管理に努める。また、近隣自治体や先進事例等の情報収集に努める。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="2">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="2">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="2">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

項　　目	評　　価			
	自己評価	教育委員評価	社会教育委員評価 文化財保護審議委員評価	第三者評価 委員評価
1　生涯学習活動の推進				
(1) 生涯学習の推進	B	B	B	B
(2) ライフステージに応じた多様な学習機会の提供	B	B	B	B
(3) 青少年育成と社会教育団体の活動奨励	B	B	B	B
(4) 心を豊かにする読書活動の充実	B	B	B	A
(5) 芸術・文化の振興	B	B	B	B
(6) 公民館施設等の管理運営	B	B	B	B
(7) 多世代交流及び多文化交流の推進	B	B	B	B
2　社会体育・生涯スポーツの推進				
(1) 健康・体力づくりを目指す生涯スポーツ・社会体育の推進	B	A	B	A
(2) スポーツ団体等の支援	B	B	B	B
(3) 体育施設等の充実	C	B	B	B
3　歴史まちづくりの推進				
(1) 歴史的風致維持向上計画の推進	B	A	B	A
(2) 文化財の保護・活用の推進	A	A	A	A
(3) 桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し	B	B	B	B

1　生涯学習活動の推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(1)　生涯学習の推進
①　「桑折町生涯学習推進基本計画」の見直し
②　生涯学習推進体制の充実
③　生涯学習社会の実現のため、情報の提供と町民ニーズに対応する事業
④　生涯学習に関するニーズの把握</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1</td><td>「桑折町生涯学習推進基本計画」の見直し</td><td>b</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td>「生涯学習推進本部会議」「生涯学習推進会議」の開催</td><td>c</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1</td><td>各種事業（ICT講座、女性や子育てに関する講座）の開催、持ち込み(自主的)講座への支援</td><td>b</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1</td><td>生涯学習に関するニーズの把握</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="4">具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・生涯学習推進基本計画（第2次）についての一部見直し</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="2">・「生涯学習推進本部会議」「生涯学習推進会議」の開催</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1</td><td colspan="2">・ICT講座の開催や持ち込み（自主的）講座への支援</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1</td><td colspan="2">・第3次計画策定に向けた、町民に対しての生涯学習に関するアンケート調査の実施</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1</td><td>アンケート回収率</td><td>40%</td><td>64.5%</td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・生涯学習推進基本計画（第2次）については、令和4年度において、課名の変更や文言の整理、ICT・SDGｓの推進等、現状に合わせた形で一部見直しを図った。生涯学習推進委員等の意見も取り入れられた。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="2">・生涯学習推進本部会議と推進会議は11月に開催し、第2次計画を令和5年度までとし、総合計画との整合性が図られるよう第3次計画を1年前倒して策定することとした。また、町民に対してのアンケート調査を実施することに、委員の理解を得、書面等で調査内容に対する意見等いただき反映することができた。</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1</td><td colspan="2">・総合政策課と共催でタブレット講座を開催し、町民の関心を高めることができた。コロナ禍の影響もあり、持ち込み（自主的）講座には申し込みがなかった。</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1</td><td colspan="2">・第3次計画策定に向け、15歳以上、1,000人の町民を対象に生涯学習に関するアンケート調査を行った。回収率を40%と見込んでいたが、64.5%となり、町民の生涯学習に対する関心の高さが伺えた。</td></tr>
</table>

改善・充実策	② 1 ・令和5年度において、会議を4回程度開催しながら、第3次計画の策定作業を進め、町民の意見等を反映した計画とし、推進していく。
	④ 1 ・アンケートの結果を分析し、町民ニーズをしっかりと捉え、より具体的な事業展開が図られるよう検討する。
担当者自己評価	B　良　い　（目標の通り達成した）
教育委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）
社会教育委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）

1　生涯学習活動の推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(2)　ライフステージに応じた多様な学習機会の提供
①　中央公民館を拠点として、知識や技能を適切に提供することができるようライフステージに応じた内容の充実</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1</td><td>公民館運営推進員を中心とした公民館事業の実施（こおりキッズスクール・こおり友遊くらぶ・かやのき学園の運営、一般講座の開催）</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>親子教室等事業への開催支援（講師謝礼の助成）</td><td>c</td></tr>
<tr><td>具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td>・公民館運営推進員を中心とした公民館事業の実施（こおりキッズスクール・成人講座等の運営）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>2</td><td>・親子教室等事業への開催支援（講師謝礼の助成）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">数値目標と
数値実績</td><td colspan="2"></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td>①</td><td>1</td><td>こおりキッズスクールの登録人数</td><td>２０名
（前年度実績）</td><td>１０名</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>成人講座参加者延べ人数</td><td>４１３名
（前年度実績）</td><td>５２４名</td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td>・公民館事業については、中央公民館長、公民館運営推進員、生涯学習係員と四半期ごとに事業内容の検討を行い、向こう３か月の講座内容を記載した募集チラシを作成して参加者を募った。講座によって参加者数に偏りはあったが、内容については参加者から好評を得られた。
■こおりキッズスクール　小学４～６年生　　１０名登録
立体紙ヒコーキづくり、星空観察、クリスマス飾りつくり等
１５講座実施　のべ　１３６名参加

■成人講座（非登録制・オープン講座）
成人向け講座として、ボッチャ大会やアンガーマネジメント講座など、高齢者向け講座としてタブレット講座や運転中の危険予測トレーニング講座など　２９講座実施　のべ　５２４名参加</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>2</td><td>・親子教室等の事業については、コロナ禍の影響もあり、PTA等の自主的開催に対する支援の機会はなかった。</td><td></td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td>①</td><td>1</td><td>・多くの町民に学ぶ機会を提供できるよう、ライフステージごとの興味関心について把握し、他自治体等の事例等も参考にしながら、事業内容を検討していく必要がある。</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>2</td><td>・親子教室等の支援について情報提供し、活用促進に努める必要がある。</td><td></td></tr>
</table>

担当者自己評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
教育委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
社会教育委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）

1　生涯学習活動の推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(3)　青少年育成と社会教育団体の活動奨励
①　家庭、学校、地域及び社会教育に関する団体等との連携及び地域の教育力を活用し青少年の育成推進</td></tr>
<tr><td rowspan="3">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1　桑折町青少年育成町民会議事業の実施</td><td>c</td></tr>
<tr><td></td><td>2　立志式の開催</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>3　社会教育団体への活動支援</td><td>b</td></tr>
<tr><td>具体的な取組</td><td>①</td><td colspan="2">1　・桑折町青少年育成町民会議事業の実施
2　・中学2年生を対象とした立志式の開催
3　・社会教育団体（ボーイスカウト）への支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td colspan="2">項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td colspan="2">1　・令和4年度においてもコロナ禍により町民会議大会の開催に向け、地区部会長会議を開催し検討したが、感染拡大を防止する観点から、書面決議により努力事項等を決定した。決定内容は町民会議だよりとして全世帯に周知し、青少年の健全育成に対して協力を求め、また、部会活動に対する支援を行った。
2　・2月3日に醸芳中学校2年生に対して立志式を開催した。９２名参加。中学2年生に自他ともに社会の一員としての自覚や誇りを持たせることを目的とし、令和2、3年度は規模を縮小し、校内関係者のみで開催していたが、今年度は3年ぶりに町長が出席して、直接立志証書を交付し、式辞を述べた。
3　・町事業では補えない体験や精神鍛錬等の活動について、社会教育団体（ボーイスカウト）への補助金交付により支援した。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td>①</td><td colspan="2">1　・コロナ禍により3年続けて町民会議大会を開催できなかったことで、地域で青少年を育成する意識が薄れてきていると感じられる。今後も部会長会議など開催し、あり方等検討する必要がある。
2　・中学校と協議し、コロナ禍以前に行っていた講演会等も開催できるよう検討し、青少年育成につなげる必要がある。
3　・社会教育団体の活動支援を継続する必要がある。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>社会教育委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="3">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

1　生涯学習活動の推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(4)　心を豊かにする読書活動の充実
①　遊学館「よも～よ」の読書環境・学習環境の充実と親しまれる運営の実施
②　町民への図書の紹介や幼・小・中学校との連携と図書の有効活用・読書活動の充実</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重点項目と評価</td><td>①</td><td>1</td><td>桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ネットワークの推進</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="3">②</td><td>1</td><td>インターネット予約・検索システムの推進</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ブックスタート事業の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td>3</td><td>中央公民館おはなしの会の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="4">具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・中央公民館分室遊学館「よも～よ」と学校図書との連携</td></tr>
<tr><td rowspan="3">②</td><td>1</td><td colspan="2">・インターネット予約・検索システムの利活用促進</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">・ブックスタート事業（乳幼児健診時）の実施</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">・中央公民館おはなしの会（月1回）の実施</td></tr>
<tr><td rowspan="3">数値目標と数値実績</td><td colspan="2"></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td>①</td><td>1</td><td>蔵書の貸し出し冊数</td><td>年間16,000冊</td><td>16,653冊</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td>図書のインターネット予約数</td><td>年間800冊</td><td>359冊</td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・学校図書室との連携を図り、睦合小・伊達崎小・半田醸芳小・子どもクラブ（睦合・伊達崎・半田）によも～よの蔵書（1,407冊）を貸し出し、読書環境の充実を図ることができた。（昨年度1,250冊）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">②</td><td>1</td><td colspan="2">・インターネット予約・検索システムについて、町広報紙やホームページ等でPRしながら利活用促進に努めた。新型コロナウイルス感染防止対策のため、一時休館した期間もあったが、システムの運用により貸出を継続することができ、年間の貸出数が大幅に減少することなく運営できた。</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">・４か月健診の乳児を対象としたブックススタート事業では、ボランティア団体「ファミリー文庫」（3団体）による読み聞かせと絵本の進呈（対象者54名）を行い、親子で絵本に親しむ機会を設けることができた。</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">・中央公民館おはなしの会として、月1回程度、子育て支援センターとの連携も図りながら、読み聞かせ事業を開催し、本の貸し出しも行った。図書カード申し込み案内もしながら本に関心を持ってもらえるようPRに努めることができた。</td></tr>
</table>

改善・充実策	②　2　・ファミリー文庫として活動するボランティア団体（３団体）の活動がメンバーの高齢化等により厳しくなっているとの意見を伺った。今後、読み聞かせのボランティア活動に興味を持ってもらえるよう、町民を対象とした読み聞かせの講座等を開催し、読書活動の充実を図るためにも人材確保・育成等に努めていかなければならない。
担当者自己評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
教育委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
社会教育委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	A　　大変良い　（目標を上回って達成した）

1　生涯学習活動の推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(5)　芸術・文化の振興
①　芸術鑑賞会や文化講演会の開催
②　町文化団体連絡協議会（町文化祭事業含む）及び加盟団体等の活動奨励・支援</td></tr>
<tr><td rowspan="3">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1</td><td>芸術鑑賞会や文化講演会の開催</td><td>c</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>1</td><td>文化団体連絡協議会活動支援</td><td>b</td></tr>
<tr><td>2</td><td>高齢者作品展の実施</td><td>b</td></tr>
<tr><td>具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・芸術鑑賞会や文化講演会の開催</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>1</td><td colspan="2">・文化団体連絡協議会活動に対しての補助金交付</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">・高齢者作品展の開催</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td>文化祭への来場者数</td><td>1,000人</td><td>793人</td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・芸術鑑賞会や文化講演会については、歴史文化分野の事業に合わせたため、独自の事業として著名人の講演会等は開催しなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>1</td><td colspan="2">・文化団体連絡協議会に対して50万円の補助金を交付し活動を支援した。令和4年度の文化祭は、コロナ禍が収まりつつある傾向があったため、幼稚園や小中学校の子ども達の作品も展示することができ、会場も華やかとなった。また、発表に関しても多くの団体が参加し、聴衆も会場に入りきれないなど、町民も芸術文化に癒しを求める姿が見受けられ、盛況に終了できた。</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">・令和4年度は、久しぶりに文化祭の会場で開催した。高齢者の生きがい・やりがいの場を提供することができた。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・歴史文化分野と事業展開について情報を共有しながら、著名人等による文化講演会の開催や旧伊達郡役所等を活用しながらの芸術鑑賞会としていくよう整理する必要がある。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="2">・文化団体連絡協議会に加盟する団体会員の高齢化が見えてきており、継続できない団体等も出てきている。町民が主体的に芸術文化活動が継続して行えるよう、活動に対する柔軟な支援の方法を検討する必要がある。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>社会教育委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

1　生涯学習活動の推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="5">(6)　公民館施設等の管理運営
①　各施設の計画的な維持補修
②　地区公民館の管理運営</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">各施設の計画的な維持補修と定期点検等</td><td>b</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="2">地区公民館の管理運営(シルバー人材センター派遣による受付・清掃等施設管理)</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="3">・各施設等の現状把握と適正な維持補修及び定期点検等の実施</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="3">・地区公民館のシルバー人材センター派遣による受付・清掃等施設管理の実施</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td colspan="2">項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="3">・各施設の現状を把握するため、建物や設備等についての確認を行った。経年劣化や耐用年数等により随時更新等を図っていくための基礎資料とすることができた。
・施設の定期点検はしっかりと行い、利便性向上に努めることができた。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="3">・地区公民館については、貸館として利用してもらうことが多くなってきており、利用者が安心して使用できるよう管理人派遣による施設の維持管理を効率よく行うことができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">改善・充実策</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="3">・施設の建物と設備に関しては、適正に更新や修繕等が図られるよう計画し、予算を確保していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="3">・地区公民館は、地域住民が使いやすいものにしていけるよう検討していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="5">B　良　い　(目標の通り達成した)</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="5">B　良　い　(目標の通り達成した)</td></tr>
<tr><td>社会教育委員評価</td><td colspan="5">B　良　い　(目標の通り達成した)</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="5">B　良　い　(目標の通り達成した)</td></tr>
</table>

1　生涯学習活動の推進

重点施策	**(7)　多世代交流及び多文化交流の推進** ①　地域学校協働活動事業 ②　ボランティア人材の発掘 ③　多世代交流の機会創出 ④　多文化に関する学習機会の提供			
重点項目と評価	①	1	地域学校協働活動事業の充実	b
	②	1	ボランティア人材の確保	b
	③	1	多世代交流の機会の提供	b
	④	1	多文化交流の機会の提供	b
具体的な取組	①	1	・地域学校協働活動推進員のコーディネートによる学校支援の充実	
	②	1	・ボランティア人材の把握と活用	
	③	1	・多世代による交流の場の提供	
	④	1	・国際理解を目的とした外国人との交流の場の提供	

数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	① 1	学校支援の回数	80件	85件

成果・評価	①	1	・幼稚園や各小学校からの依頼により、推進員のコーディネートで各分野のボランティアを活用して学校支援を行った。地域人材を活用することで子どもたちの興味関心を深めることができた。
	②	1	・人材バンク登録者名簿を更新し、各分野で学校支援等に協力いただくことができた。
	③	1	・青少年育成町民会議の部会活動やボーイスカウト等への補助金交付により、それぞれにおいての多世代での事業展開を支援した。
	④	1	・公民館講座（キッズスクール）において、福島大学の留学生と子どもたちの交流の場を提供し、遊び等を通じて国際理解を深めることができた。
改善・充実策	②	1	・本の読み聞かせを行うボランティア団体が、メンバーの高齢化等により活動継続が難しくなってきているとの意見を伺った。今後、町民を対象とした読み聞かせの講座等を開催しながら人材確保・育成等に努めていかなければならない。
	③	1	・青少年育成町民会議活動やボーイスカウト等への支援を継続しながら、公民館講座等においても多世代での交流を目的とした事業展開を図る必要がある。
	④	1	・子どもの講座だけではなく、成人講座等においても外国人との交流の機会を提供し、国際理解を深める必要がある。

担当者自己評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
教育委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
社会教育委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B　　良　　い　（目標の通り達成した）

2　社会体育・生涯スポーツの推進

重点施策	**(1)**	**健康・体力づくりを目指す生涯スポーツ・社会体育の推進**		
	①	健康・体力づくりのための事業展開		
	②	イコーゼ！の効率・効果的な利活用		
重点項目と評価	①	1	小学生陸上競技大会の運営	b
		2	水泳教室・運動教室の実施	b
		3	スポーツ・健康講演会の開催	b
	②	1	年代に応じた各種水泳教室の実施	b
		2	小中学生水泳授業、町小学校水泳大会の開催	b
		3	屋内遊び場の活用コンテンツの提供	b
具体的な取組	①	1	・小学生陸上競技大会の運営	
		2	・健康福祉課との連携による水泳教室（４期）・運動教室の開催	
		3	・著名人等によるスポーツ・健康講演会の開催	
	②	1	・園児・小学生・大人の水泳教室の開催（３期）	
		2	・学校水泳授業の実施・支援、水泳記録会の開催	
		3	・屋内遊び場利活用促進のためのイベント開催	

数値目標と数値実績			項目	数値目標	数値実績
	①	1	小学生陸上競技大会参加	80%	80.3%

成果・評価	①	1	・令和4年度において初めて社会体育としての小学生陸上競技大会を開催した。スポーツ推進委員やスポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、PTA等の協力を得ながら運営し、安全に大会を開催することができた。次年度に向けて、運営に対する意見等を聴取し、初めてのことで戸惑いも多かったようだが、概ね良好との評価をいただき、５・６年生の体力向上につなげることができた。
		2	・保健師によるインボディ測定と健康相談等を行いながら、有酸素運動と筋力トレーニングを基本とした水泳教室・運動教室を開催し、年間を通じて運動機会を提供することができた。
		3	・5/29に青空ヨガ、6/4に筋肉体操、9/4に陸上教室を開催し、著名人からの講話と実践を行い、直に指導を受けられることもあって、町民の健康意識を高めることができた。
	②	1	・各年代ごとの水泳教室を開催し、プールに親しみながらの泳力向上に努めた。幼稚園児の水慣れ教室は毎回定員に達し、プールに対する関心度の高さが伺えた。

		② ・6月～8月において、学校水泳授業を開催し、教員のサポートとして水泳インストラクターや監視員を配置しながら安全に行うことができた。また、学校ごとの水泳記録会も開催し、子どもたちの泳力向上につなげることができた。
		③ ・被災者支援の補助金を活用し、屋内遊び場の利活用促進につなげるため、親子で楽しめるイベントを12/11、2/26に開催し、音楽やダンスで体を動かしながら楽しんでもらうことができた。親子イベントの継続した開催希望の声も多数あった。
改善・充実策	①	① ・運営に携わった方々の意見を参考とし、子どもたちの体力向上のため、参加は強制ではないものの、全員が自主的に参加できるよう、よりよい運営方法を検討する必要がある。
		② ・継続して健康福祉課と連携を図りながら、町民の体力向上につなげられるよう、開催方法を工夫していく必要がある。
		③ ・著名人による事業展開は単発となってしまうことから、町民が継続して実践できる事業展開を検討する必要がある。
	②	① ・屋内温水プールの活用促進を図るためにも、水泳教室だけではなく、プールを活用したイベント等を検討する必要がある。
		② ・限られた時間の中で子どもたちの泳力向上につなげられるよう、継続して支援していく必要がある。
		③ ・補助金の活用が年々厳しくなってきていることもあり、限られた財源の中でも親子で楽しむ機会を提供できるよう工夫しながら、遊び場の利活用促進を図る必要がある。
担当者自己評価	B　良　い　（目標の通り達成した）	
教育委員評価	A　大変良い　（目標を上回って達成した）	
社会教育委員評価	B　良　い　（目標の通り達成した）	
第三者評価 委員評価	A　大変良い　（目標を上回って達成した）	

2　社会体育・生涯スポーツの推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(2)　スポーツ団体等の支援
①　各種スポーツ団体への活動支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1</td><td>総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」への支援</td><td>b</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>スポーツ協会加盟団体のスポーツ大会支援</td><td>b</td></tr>
<tr><td>具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」への補助金交付による活動支援</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・スポーツ協会への補助金交付による活動支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td colspan="2"></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・マルベリーこおりへ補助金を交付しながら運営の支援を行った。地域での運動機会を提供する上で、伊達崎小学校が全く使えなかったことが運営の大きな痛手となった。しかし、場所を変えたりしながら工夫して運営できていた。</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・スポーツ協会へ補助金を交付しながら運営の支援を行った。コロナ禍が少しずつ落ち着いて来たこともあり、それぞれの団体の活動も戻ってきた状況が見えた。2年ぶりにスポーツフェスティバルも開催し、町民のスポーツの機会を提供することができた。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・コロナ禍が落ち着いて来たことをふまえ、継続した町民スポーツの機会を提供できるよう、自主的活動を支援していく必要がある。</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・コロナ禍が落ち着いて来たことをふまえ、継続した町民スポーツの機会を提供できるよう、自主的活動を支援していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>社会教育委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

2　社会体育・生涯スポーツの推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(3)　体育施設等の充実
①　体育施設全般の有効的な管理運営方法の検討
②　経年劣化に伴う計画的な維持補修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重点項目
と評価</td><td>①　1</td><td colspan="2">体育施設の利用環境の向上と効果的な利活用</td><td>c</td></tr>
<tr><td>②　1</td><td colspan="2">体育施設の計画的な維持補修及び管理</td><td>b</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な取組</td><td>①　1</td><td colspan="3">・体育施設の使用料等の検討</td></tr>
<tr><td>②　1</td><td colspan="3">・体育施設の計画的な維持補修及び管理</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td>①　1</td><td>体育施設の利用者数</td><td>昨年実績
41,585人</td><td>44,178人</td></tr>
<tr><td rowspan="2">成果・評価</td><td>①　1</td><td colspan="3">・体育施設を有効活用してもらえるよう、使用料等について検討すべきであったが、利用の仕方を整理するにとどまり、使用料改定までに至らなかった。</td></tr>
<tr><td>②　1</td><td colspan="3">・体育施設の現状を把握するため、建物や設備等についての確認を行った。経年劣化や耐用年数等により随時更新等を図っていくための基礎資料とすることができた。クラブハウスの浄化槽破損が見つかったことから、令和５年度で撤去する方針を固めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">改善・充実策</td><td>①　1</td><td colspan="3">・電気や燃料、物価等が高騰していることもあり、施設の使用料については、現状をよく見極め、効率的、効果的に利用してもらえるよう受益者負担について検討していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>②　1</td><td colspan="3">・施設の経年劣化による修繕等については、現状を見極めて優先順位をつけ、町民の運動機会を確保できるよう、予算化していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="4">C　　やや悪い　（目標を少し下回った）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>社会教育委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="4">B　　良　　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

3　歴史まちづくりの推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(1)　歴史的風致維持向上計画の推進
①　歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進
②　歴史案内人育成と体制の充実
③　ふるさと教育の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="5">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1</td><td>歴史的風致維持向上計画の見直し</td><td>d</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>文化財及び歴史的遺産の保存と活用</td><td>c</td></tr>
<tr><td></td><td>3</td><td>歴史的文化の普及啓発</td><td>b</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td>歴史案内人育成と活用</td><td>a</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1</td><td>ふるさと教育の推進</td><td>a</td></tr>
<tr><td rowspan="4">具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・桑折町歴史的風致向上計画推進協議会の開催</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・桑折西山城まつり事業、旧伊達郡役所再開館事業の開催</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="2">・歴史案内人勉強会の開催と歴史案内人活動展開</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1</td><td colspan="2">・小学校総合学習での郷土学習実施及びこども歴史案内人育成</td></tr>
<tr><td rowspan="5">数値目標と
数値実績</td><td colspan="2"></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td>①</td><td>1</td><td>会議の開催回数</td><td>2回</td><td>1回</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>桑折西山城跡来場者数</td><td>2000人</td><td>7615人</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td>歴史案内人講座勉強会回数</td><td>8回</td><td>4回</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1</td><td>こども歴史案内人人数</td><td>10人</td><td>18人</td></tr>
<tr><td rowspan="4">成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・歴史的風致維持向上計画見直しについては、福島県沖地震により、歴史的建造物が取り壊される等したため、登録有形文化財制度を活用した保存に変更した。</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・桑折西山城跡の保存・活用事業として、新たに設立された桑折西山城を守る会との協働で、「桑折西山城まつり」事業を開催し、令和3年度まで開催してきた全国山城サミット事業を継続させることができた。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1</td><td colspan="2">・歴史案内人勉強会を開催し、組織の充実と、案内の質の向上を図った。</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1</td><td colspan="2">・こども歴史案内人育成講座を開催し、町内全小学校から郷土学習で桑折西山城跡について学んだ町内全小学校6年生18人をこども歴史案内人として認定し、桑折西山城まつりにおいて発表・案内を行った。</td></tr>
</table>

改善・充実策	①	1 ・歴史的建造物について、文化庁の登録有形文化財制度を活用した保存と歴史的景観形成を図る。
		2 ・桑折西山城を守る会、桑折町文化財保存会等との協働による文化財保存・活用事業の開催の充実を図る。
	②	1 ・歴史案内人勉強会、育成講座を開催し、さらなる体制の増強を図る。
	③	1 ・小中学校の郷土学習に積極的に取り組み、こども歴史案内人育成事業を継続することで歴史遺産を未来に継承する裾野を広げる。
担当者自己評価	B　良　い（目標の通り達成した）	
教育委員評価	A　大変良い（目標を上回って達成した）	
文化財保護審議委員評価	B　良　い（目標の通り達成した）	
第三者評価 委員評価	A　大変良い（目標を上回って達成した）	

3　歴史まちづくりの推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(2)　文化財の保護・活用の推進
①　史跡桑折西山城跡の保存団体を組織し、維持管理や案内を行う体制づくり</td></tr>
<tr><td rowspan="3">重点項目
と評価</td><td>①</td><td>1</td><td>史跡桑折西山城跡の保存団体の設立及び活動支援</td><td>a</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>史跡桑折西山城跡の維持管理</td><td>a</td></tr>
<tr><td></td><td>3</td><td>史跡桑折西山城跡の案内体制づくり</td><td>b</td></tr>
<tr><td>具体的な取組</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・桑折西山城を守る会の設立及び補助金による支援</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・桑折西山城を守る会との協働による草刈等史跡の維持管理</td></tr>
<tr><td></td><td>3</td><td colspan="2">・歴史案内人の充実による案内体制づくり</td></tr>
<tr><td rowspan="4">数値目標と
数値実績</td><td></td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td>①</td><td>1</td><td>桑折西山城跡保存団体設立</td><td>1団体</td><td>1団体</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>桑折西山城守る会主催による草刈ボランティア開催</td><td>2回</td><td>2回</td></tr>
<tr><td></td><td>3</td><td>桑折西山城跡来場者数</td><td>2000人</td><td>7615人</td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・全国山城サミット桑折大会実行委員会を母体に「桑折西山城を守る会」を設立し、団体との協働による史跡の保存・活用体制に入った。</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・町主催で行ってきた桑折西山城草刈ボランティアを桑折西山城を守る会主催に移行した。</td></tr>
<tr><td></td><td>3</td><td colspan="2">・全国山城サミット事業やＮＨＫＢＳで紹介されたことにより、来場者数が飛躍的に増大した。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td>①</td><td>1</td><td colspan="2">・桑折西山城を守る会の組織の充実を図り、町との協働による史跡の保存と活用を推進する。</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td colspan="2">・桑折西山城を守る会の組織の充実を図り、町との協働による史跡の維持・管理を推進する。
・歴史案内人の充実による案内体制づくりを整備する。</td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="4">A　　大変良い　（目標を上回って達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="4">A　　大変良い　（目標を上回って達成した）</td></tr>
<tr><td>文化財保護審議委員評価</td><td colspan="4">A　　大変良い　（目標を上回って達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="4">A　　大変良い　（目標を上回って達成した）</td></tr>
</table>

3　歴史まちづくりの推進

<table>
<tr><td>重点施策</td><td colspan="4">(3)　桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し
①　文化記念館の復旧
②　文化記念館の活用と充実</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重点項目
と評価</td><td colspan="3">①　1　文化記念館の復旧</td><td>b</td></tr>
<tr><td colspan="3">②　1　文化記念館の歴史探訪・観光拠点機能の充実</td><td>c</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な取組</td><td colspan="4">①　1　・旧伊達郡役所災害復旧保存修理事業の実施</td></tr>
<tr><td colspan="4">②　1　・種徳美術館のあり方検討と収蔵品整理</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数値目標と
数値実績</td><td></td><td>項目</td><td>数値目標</td><td>数値実績</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>成果・評価</td><td colspan="4">①　1　・旧伊達郡役所災害復旧保存修理事業を12月に完成させ、再開館した。
②　1　・種徳美術館建物を解体する方向性を定め、収蔵品の保存、活用のあり方を検討した。</td></tr>
<tr><td>改善・充実策</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>担当者自己評価</td><td colspan="4">B　良　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>教育委員評価</td><td colspan="4">B　良　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>文化財保護審議委員評価</td><td colspan="4">B　良　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
<tr><td>第三者評価
委員評価</td><td colspan="4">B　良　い　（目標の通り達成した）</td></tr>
</table>

第３　教育委員会の校長に委任する事務の管理及び執行状況

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和５年３月１５日

学校名　　桑折町立醸芳小学校

職氏名　　校長　遠藤　和宏

令和４年度学校経営評価報告書

１　学校経営の方針

学校経営の根本精神「こつこつ とことん あきらめない」の共通認識を図り、重点目標「自分から『あいさつ』『学び』『思いやり』『チャレンジ』」をする醸芳っ子の育成」を目指し、教育活動を推進する。

（１）教職員が一体となり、潤いのある生き生きとした魅力ある学びの場を構成し、知・徳・体の調和の取れた心身ともに健全で心豊かでたくましい児童の育成を目指す。

（２）「社会に開かれた教育課程」の実施により、学校、家庭、地域の連携・強化を図り、地域と一緒に子供たちを育む体制を確立する。

（３）学校評価、人事評価、学校評議員制度を教育活動の改善に活かし、よりよい学校づくりに努める。

２　学校経営総合評価

（１）「こつこつ とことん あきらめない」という根本精神、「自分から『あいさつ』『学び』『思いやり』『チャレンジ』を重点目標に掲げ、「自分から行動する」主体性に重点をを置き、児童、教職員、保護者に浸透させ継続して取り組んできた。その成果として、ボランティア活動やあいさつ等の児童の姿に着実に現れてきているが、「自分から」という部分については課題が残り、次年度「自分から勇気をもってチャレンジ！」という重点目標を設定し、継続して指導することにした。とくにあいさつについては、重点実践事項に設定し、年間を通して指導をしていきたい。

（２） 講師招聘による教職員の資質能力を高める全体研修会（９月、１１月）、１人１授業研究と互見授業、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日々の授業の充実や指導方法の改善に努めることができた。「確かな学力」の基礎となる取組として、朝の活動の時間の読み・書き・計算の「徹底反復の時間」の徹底、「家読」運動への取組、主体的な家庭学習の習慣化など、組織的に着実に取り組んできた。その結果、全国学力学習状況調査、ふくしま学力調査、徹底反復のチェックテスト結果も向上させることができた。

とくに、１１月に行った国語科の自主公開では、秋田大学名誉教授の阿部昇先生のご指導を受けることができ、秋田の探究型授業を目指す私たちにとって、実りある研修となった。

（３）いじめ・不登校問題については、関係機関やＳＣ、ＳＳＷ等と連携を図りながら、本人、保護者に寄り添いながら、校長のリーダーシップの下に早期発見・早期対応に努めた。とくに不登校の案件については、丁寧に粘り強く対応した。不登校・不登校傾向児童は２であるが、この問題については、積極的にケース会議を開いたり、保護者と数回懇談を行ったり、ＳＳＷと連携を図った取組等を行ったりすることで、着実に改善傾向が見られる。１名は２学期当初全く登校できなかったものが、管理職の支援もあり、現在では朝から登校できるまでに改善され、もう１名は、ＳＳＷと連携しながら対応を進め、学校にも何度か足を運ぶことができた。今後も継続して対応をしていきたい。

（４）保護者、地域から応援信頼される「安心・安全な学校づくり」の取組として、新型コロナウイルス感染症対策の徹底のために、町教育委員会と連携を図りながら、新しい生活様式に危機意識を持って取り組んだ。また、毎朝の立哨指導、授業における地域人材の積極的な活用とともに、情報発信（学校便り週１回、ホームページ毎日更新）により、学校の教育活動への理解と協力連携を深め、信頼感へとつなげてきた。これは、学校評価アンケートでも高い評価を得ている。

また、今年度も地域ボランティアの助言を受けながら花いっぱいの環境づくりに力を入れ、「花いっぱいコンクール」奨励賞、「全国花のまちづくりコンクール」入選を果たした。醸芳小学校の伝統として、今後も継続していく。

（５）不祥事根絶のため、「風通しのよい職場づくり、同僚性を高める職場づくりこそ不祥事根絶」の最善策であるという認識に立ち、教頭と共に「聴く」姿勢を大切にし「教職員とのコミュニケーション」を多く取ってきた。また、当事者意識を高めるために校内服務倫理委員会の定期的な開催や不祥事防止担当等輪番制による提言、「信頼される学校づくりを職場の力で」の活用、不祥事事案の資料の配付等を着実に行うことで、不祥事防止に対する当事者意識も高めることができている。

しかし、校内服務倫理委員会の十分な時間の確保は難しく、外部者（弁護士、ＰＴＡ役員、警察等）の参加については、今後の課題としたい。

3　学校経営課題の実施状況

（1）学校経営

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	1　学校経営・運営ビジョンの共通認識と具現化 2　保護者、地域から応援、信頼される学校づくり	B A
実践事項	1　教職員、児童、保護者へ教育活動の意識化 ○　学校経営・運営ビジョンを明確に示し、教職員でしっかりと共通認識を図る。醸芳小の合言葉「こつこつ　とことん　あきらめない」が、日常的に児童の姿としてあらわれるように、年間を通して着実な実践をする。	B
	2　児童、保護者、地域への積極的な関わり、信頼関係づくりの強化 ○　毎朝の立哨指導、通学班の安全指導、桑折学習塾への協力、各種団体の会合への参加、授業における地域人材の積極的な活用とともに、ホームページ（毎日更新）や学校便り（週１回）等で、児童の活躍を積極的に発信していく。	A
課題等	○　学校経営の根本精神が、平成２５年度から受け継がれ来ている『こつこつ　とことん　あきらめない』という合言葉である。これは、「継続、徹底、根気」を表しているもので、一時的ではなくしっかり継続して取り組んでいくこと、できるまで解するまで徹底して取り組んでいくこと、例え解決に時間がかかろうとも根気強く取り組んでいくことを意味しており、職員には会議等あるごとに話をしてきた。一方、児童に対しても学校行事等があるごとに、この言葉を用いて根気強く頑張ってほしいということぅ繰り返し話をしてきたし、担任も同様に指導を続けてきた。その結果、学校行事での児童の目標発表の内容に、この『こつこつとことんあきらめずに頑張りたい』という言葉が多く聞かれるようになり、努力する姿が見られるようになった。 ○　今年度の重点目標である『自分からあいさつ、学び、思いやり、チャレンジ』について、自主性を伸ばすためにも、『よさや個性を大切にし、ほめて伸ばそう』と、第１回職員会から職員に繰り返し呼びかけてきた。指導の成果については、毎月の生徒指導協議会であったり、学期末の反省会を中心として反省をし、対策について共通理解を図りながら指導を続けてきた。重点事項のあいさつについて、不十分であったと言う反省になったため、来年度の重点課題として取り上げ、生徒指導部、児童会担当などを中心に、具体的なプランを立てて解決を図っていきたい。 ○　教職員の立哨指導は毎月３カ所で行っているが、校長としては、横断歩道がある４地点を毎日場所を交代で、安全指導及びあいさつ指導も含めて行っている。 ○　授業における地域人材の活用については、総合の時間で桑折町ならではのふるさと学習を行っており、そのために、りんご王林開発者、ほたる保存会、桑折町商工会、社会福祉協議会、生涯学習係など講師に迎え学習を行った。また、１年生の昔遊びのために老人クラブ、読み聞かせのために読書ボランティア、クラブ活動や器楽部指導のためにも地域人材を活用しており、効果を上げることができた。他にも出前講座も積極的に活用した。 ○　ホームページ更新は毎日行い、子供たちの活動の様子だけでなく、教職員の頑張り、ＰＴＡ活動についても同時に配信している。保護者にも大変好評である。学校便りについても、同様の目的に加え、校長の考えを伝える場でもあるので、週１回のペースで発行している。なお、学校だより、運営ビジョンなどは、ホームページから閲覧できるようになっている。	

（2）学校教育管理

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	1　現職教育授業研究会を活かした授業改善・充実 2　人間関係形成力、あいさつ力の育成を図った心の教育の充実 3　体力向上と健康教育の充実	A B B
実践事項	1　現職教育授業研究会を生かした授業改善・充実 ○　ふくしまの「授業スタンダード」を活用し、講師招聘による授業研究、互見授業の活発化、管理職による日常的な授業観察により、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの指導助言をする。１１月	A

	の国語科の自主公開では、研究の成果を発表する。また、タブレットや電子黒板などのＩＣＴを積極的に活用した授業改善を進める。	
	○　読み、書き、計算の「徹底反復」の徹底、「家読」の取組、家庭学習の習慣化により、学習の基盤作りと学びの意欲付けが図られるようにする。	B
	2　「人間関係形成力」や「あいさつ力」の育成 ○　望ましい学級集団づくりのために「先生への手紙」「ＱＵテスト」より、児童一人一人の内面を多面的に捉え、道徳科・学級活動の時間を核とした学級経営の充実を図る。迅速、丁寧、誠実な対応により、不安や悩みの解消、問題行動の未然防止に努める。児童会活動とタイアップし「あいさつ運動」等を通して意欲付けを図り、「あいさつ力」を育成する。	B
	○　特別な支援を必要とする児童、不登校児の対応については、リーダーシップを発揮し、積極的なケース会議を進め、町教委やＳＣ、ＳＳＷ、関係機関との連携・協力を図りながら、児童の特性に応じた学習環境が整えられるようにする。	B
	3　体力向上と健康教育の充実 ○　運動身体づくりプログラムの自校化、外遊びの奨励、体育委員会によるスポーツ集会、はやぶさタイムの充実、体育専門の外部講師の活用により、運動の楽しさを実感させる。	B
課題等	○　授業改善充実については、主体的、対話的で深い学びの授業づくり及びタブレットなどＩＣＴの効果的活用をめざし、１人１研究授業を行った。互見授業を中心に行ったが、校長としては、授業の成果と課題を必ず１枚のリーフレットにまとめ、授業者に渡すようにしたＩＣＴの活用については、ＩＣＴ支援員を講師に自主的に研修会を行い、技能を高める姿が見られている。１１月の国語科の研究授業では、秋田大学名誉教授の阿部昇先生をお迎えし、事前研究会の段階からご指導をいただきながら、探究型授業に取り組んだ。２つの授業を公開したが、阿部先生のご指導のおかげで、授業者も参観者も大きな成果を上げることができた。今後もよりよい授業を目指して授業改善に取り組んでいきたい。 ○　町での取組である徹底反復練習は、町教育委員会の指導をもとに、学級ごとの取組の差を解消し、成果を上げれるように努力した。家庭での自主学習については、ノートを展示することで、児童に意欲を高めることができた。 ○　学級経営が学校経営の基盤になることの共通理解を図り、年３回の『先生への手紙』により児童の気持ちを把握して、教育相談により悩み等に対応できるようにした。また、ＱＵテストの結果をもとに学級集団の特徴、支援が必要な児童を理解して学級経営を行った。 ○　あいさつについては、児童会運営委員会によるあいさつ運動を行った。自作のたすきを着用しているが､小さな親切運動事務局からもたすきや旗をいただいたので、より活発に活動ができるようにしていきたい。 ○　不登校児童については、保護者との懇談に数回行い、対応を確認したり、支援センターあゆみとつなげたり、ＳＳＷとつないだりして対応した。１名は学校に登校できた時に、担任外が学習の対応することで、登校できる日がずいぶん増えた。もう１名については、オンラインにより授業の様子を配信したり、担任やＳＳＷの家庭訪問を継続して行い、改善の兆しが見え始めている。また、情緒不安定になったり、学習への関心が高まらなかったり児童がいるが、対応を全て担任に任せることなく、ケース会議を開いて対応策を共有し、担任外が授業に入ったりしながら、担任を支えた。保護者との懇談も進めた。 ○　体力向上については、運動身体づくりプログラムを授業で行うようにしたり、頑張りカードを活用して自主的にマラソンや縄跳びの練習ができるようにした。週１回業間の時間に行う『はやぶさ活動』については、年間を通してなわとび運動を行うようにし、体力向上を図った。陸上競技大会の前には、朝や放課後の時間を活用し、基礎体力と技能の向上を図り、その結果大会では優秀な成績を収めることができた。また、福島大学トラッククラブの陸上の指導やふくしまファイヤボンズの選手によるバスケットボールの指導など、外部講師による指導の機会もあった。 ○　健康教育の推進については、栄養教諭による食育の指導、学校歯科医や学校薬剤師によるむし歯予防、薬物乱用防止に指導を行った。また、学校保健委員会を開き、学校、学校医、保護者を交えて健康教育について話し合う機会を設けた。	

（3）人事管理（教職員の指導・管理）

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況

重点事項	1　教育公務員としての不祥事根絶 2　教職員の専門性や資質能力の向上、心身の健康管理と職務遂行	A B
実践事項	1　感度を高め、共有化を図る危機管理意識の徹底 ○　校内服務倫理委員会の輪番制による提言や、外部による客観的な意見を取り入れた会の運営により、当事者意識、同僚性の醸成が図られるようにする。教職員とのコミュニケーションを大切にし、管理職に相談しやすい風通しのよい職場作りに努め､｢報・連・相体制｣を確立する。	A
	2　教職員一人一人の日々の取組の評価と継続的な指導 ○　教職員一人一人とのコミュニケーション、日頃の授業観察の機会を多くし、教職員の日々の取組、強みやよさを認め、励まし、資質能力を高める。	B
課題等	○　不祥事根絶については、毎月に服務倫理委員会では、輪番制による提案を行い、不祥事が他人事にならないように運営を工夫した。中でも、不祥事防止の標語を教職員から募集して優秀作品を投票して表彰した取組は、興味深いものであった。 ○　些細なことであっても、報告、連絡、相談できるように、職員間のコミュニケーションを活発化させ、担任が一人で抱え込んだり悩んだりしないように心がけた。 ○　教職員の資質向上については、日常的な授業観察を心がけ、学級や学年の実践について、賞賛と助言を行うようにした。人事面談では、教職員の実践のよさについて、積極的に賞賛をし、実践意欲につながるように心がけた。 ○　今年度は初任者研修があったため、初任者に指導助言を行ったり、悩みの相談に乗ったりしながら、計画的に研修を進めた。	

（4）その他

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	1　新型コロナウイルス感染拡大予防と危機管理意識の徹底 2　地域と連携を図った教育活動の推進	B A
実践事項	1　新型コロナウイルス感染拡大予防と危機管理意識の徹底 ○　新型コロナウイルス感染症に関する通知など情報を共有し、教職員、児童、保護者の危機意識を高め、マンネリ化せず組織的、継続的に取り組んでいく。	B
	○　学警連や町内の生徒指導の情報をもとに、積極的な安全指導に努める。安全な登下校については、ＰＴＡや防犯協会、警察等関係機関と一体となった体制づくりをする。	B
	2　地域と連携を図った教育活動の推進 ○　桑折町の歴史や産業などについて、外部講師の招聘や現地の見学等を通して学ぶことにより、桑折地域のよさに気づかせていく。	A
課題等	○　コロナ対応については、教職員内で情報を共有しながら対策を徹底した。保護者についても、対策の協力をお願いした。休日に学校や担任へ連絡する手段がなかったため、休日連絡用のメールを設定し、有効に活用することができた。 ○　本校は児童数が多いため、学校行事の運営については最大限気をつけながら行った。なお、保護者対応は教頭の一本化を図った。また、対応については、町教育委員会とも連携を図りながら行った。 ○　西山城まつりに関連して、こども歴史案内人に応募し、当日は観光客に対して説明することができた、今後は、西山城だけでなく、旧郡役所を含めた桑折町の歴史について学習をさせていきたい。	

評価は、A、B、C、Dの４段階評価とする。
A（4）：十分に目標を達成している。
B（3）：おおむね、目標を達成している。
C（2）：やや目標の達成には至っていない。
D（1）：目標を達成していない。

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和５年２月２４日

学校名　　桑折町立睦合小学校
職氏名　　校長　　岩井　智哉

令和４年度　学校経営評価報告書

１　学校経営の方針

(1) 安全・安心、信頼される学校づくりの推進
(2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着とともに、その活用を図る学習活動の推進
(3) 学習指導要領を踏まえた指導の充実
(4) 人権意識を高め「いじめのない学校」をめざす
(5) 健やかな心身を育てる健康教育の推進
(6) 読書指導の充実
(7) 少人数の良さを活かした学習指導・生徒指導
(8) 指導力を培う校内研究・研修充実

２　学校経営総合評価

(1)「向上心を持ち、実践力のある児童の育成～見上げる心かがやく目～」の教育目標と児童像の具現に向け、教職員が一丸となり教育活動を進めてきた。方針第一にある「安全・安心、そして信頼される学校であること」は、家庭や地域の信頼があってこそ豊かな教育活動が成り立つことを全職員で常に確認し、開かれた学校を目指し、学校のホームページや学校だよりで学校の様子を紹介する等情報発信に努めてきた。特にホームページについては、ほぼ毎日更新してきた。学校だよりについても週に１回程度は発出して情報発信をしてきたため、保護者や地域からの苦情は全くなかった。

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、児童の健康状況の把握や家庭との連携、マスク着用、教室の換気などの「新しい生活様式」を指導し、児童の感染防止の徹底に努めるとともに、コロナ後を見据えた行事等の再構築にも取り組んできた。

(2) 学力向上に関しては、本町の方針と事業、現職教育の相互関連を密にして取り組むことができた。現職教育では、全ての学級が同一歩調で研究主題に沿って実践を進め、成果を共有し、教員が自らの授業力向上に努める意識が向上した。

町内小学校で統一して実施している「読み・書き・計算」の徹底反復学習については、本校で課題となっていた全漢字の指導について学力向上担当教員を中心に教員間で協議し、さらに管理職が毎日参観し、指導助言することで、学校全体で取組みが一本化し、漢字・百ます計算チェックテストでの数値に大きな成果が見られ、ねらいである漢字、計算などの基礎的・基本的な学力の定着、集中力の向上へ繋げることができた。

現職テーマ「ともに考え、自らの学びを深める児童の育成～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて」を目指す授業では、自分や教材、他者との対話を生み出す学習過程の工夫により、児童が問いをもち、考えたくなる課題を設定したことで、児童の「考えたい」、「学びたい」という意欲を喚起するような授業が展開できたこと等が成果としてあげられた。一方で、振り返りの場が、単なる活動としての振り返りにならないように配慮し、児童の自発的な振り返りを促す必要があるといった課題があげられた。

また、前年度より導入された一人一台端末（タブレット）の活用については、効果的な活用について桑折町ＩＣＴ支援員の氏家氏の協力を得ながら、校内研修を行う等積極的に取り組んできた。今後も、タブレットの効果的な活用についてさらに研究を深めていきたい。

(3) 校名の由来でもある「睦み合う心」を育て、「いじめのない学校」を目指し、いじめアンケート調査や日常観察を重視し、少人数の良さを活かした生徒指導を徹底してきた。トラブル等が発生した場合

には担任だけに任せず生徒指導主事を中心に組織的に対応し、迅速な対応ができた。また、情報を共有しながら事後の対応に当たり、児童の心のケアや再発防止を行ってきた。

今後も小規模校のよさを活かして、「全校生を全職員で見守る」体制を継続させていく。

(4) 体力向上の「遊具がんばり」の取組みは、本校の伝統の一つであり、休み時間、授業、運動会等と関連付けて、一輪車、竹馬、雲梯等の遊具、器具を使い、系統的に体力向上を図ってきた。運動会、持久走記録会、なわとび記録会を全校生で実施し、児童が自らめあてをもって運動に取り組むことができた。運動に対する高い興味関心を維持させ、体力向上にむけての意欲を維持していきたい。また、肥満解消と健康の保持増進を目的に始めた「むつあいウォーキングチャレンジ」では、児童に「歩く」ことを意識させるため、全児童に万歩計を配付し１２月より実践してきた。児童はこれまで無関心だった日々の自身の運動量を「歩数」という形で「見える化」し、より目的意識を持って生活するようになった。休みの日にも家族で近所を歩くなど「歩く」ことの意識啓発に繋がった。本取組みについては、今後も効果を検証しながら工夫して取り組んで行きたい。

３　学校経営課題（今年度の重点）の実施状況

(1) 学校経営

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価 達成状況
重点事項	①　職員の「学校経営・運営ビジョン」への意識持続と解決に向けた実践	B
	②　保護者・地域との連携強化	B
実践事項	①　ア　「経営方針・ビジョン」「県や町の施策」の具現化への取組	B
	イ　カリキュラムマネジメントを意識し、より高い学びの姿を求め、地域・人との出会いや、特色ある教育活動の実践	A
	・　夢の木、地域人材活用・歴史（西山城）等	
	ウ　人事評価の機会を活用し、個々が課題解決意欲を高める働きかけ	B
	・　短・中・長期目標設定と組織としての機能の向上	B
	・　管理職の的確な見取りと相談体制の充実	B
	②　健やかな成長を願う保護者や地域との連携強化（地域と連携した空き缶等の資源回収）	A
	・　安全点検実施（教員・児童）と危険個所改善に向けた取組	B
	・　学校だよりとHP、学校メールによる速やかな情報提供	A
課題等	①　イ　コロナ禍の中ではあったが、地域・人との出会い、本校ならではの特色ある教育活動の実践については、全ての教育活動を通して実施することができた。	
	②　ＰＴＡ奉仕活動を２年ぶりに実施し、町陸上大会での保護者の役員参加などもあり、少しずつコロナ前に戻りつつある。また、学校だよりや学校ＨＰによる情報発信を積極的に行った。（学校だよりは年４０号程度、ＨＰは毎日更新した。）	

(2) 学校教育の管理

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価 達成状況
重点事項	①　学力向上に向けた授業改善	A
	②　いじめのない学校の実現	B
	・組織的相談体制の充実と早期対応	
	③　体力向上と健康の保持増進	B
実践事項	①　主体的に学ぶ授業の実現	B
	ア　県や町教育施策の徹底	B

	イ 基礎・基本的内容の定着（「学びタイム」、徹底反復学習、読書タイム、「ステップ学習」等の実施徹底）	A
	ウ 個の学びに応じた指導の工夫改善	B
	エ 家庭との連携充実（自学コンテストの実施、ＩＣＴ機器の活用）	B
	② ア 豊かな体験活動を実践する機会の設定	B
	（人権・キャリア教育、キャリアパスポートの活用）	
	イ 特別の教科道徳を核とした生き方、命の大切さに対する心情を高める取組	B
	ウ 「不登校」「いじめ」等の予防、早期発見と対処	B
	・ 学校方針理解と組織での確認、家庭への周知	B
	・ 些細な事も見逃さない対応	B
	・ 学級ルールや人間関係充実の取組（場に応じたスキルトレーニング）	B
	③ 体力向上に向けた実践	B
	ア 体育科授業の充実	B
	イ 朝、業間運動、一校一実践「遊具がんばりカード」の活用	A
	ウ 運動身体づくりプログラムの実施	B
課題等	① イ 徹底反復学習（学びタイム）の実践が進み、児童に定着してきている。重点期間を設けて実践の充実を図ってきた。 ② ア 感染症対策を取りながら、豊かな体験活動の充実に努めてきた。ボランティアの方や地域の方から支援いただきながら、各学年の実態に応じた「本校ならでは」の体験活動を実践することができた。 ③ イ 「遊具がんばり」による取組を全校生で実施し、休み時間には一輪車や竹馬、登り棒、雲梯等に積極的に取り組む児童が増え、自信をつけさせるとともに体力を向上させることができた。	

(3)人事管理（教職員の指導・監督）

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	① 無事故・不祥事絶無の徹底	A
	② 児童理解力向上の研修の実施	B
実践事項	① ア 服務倫理委員会方法・内容を改善する。	B
	・ 輪番制話題提供と時期を考慮した啓発	A
	イ 多忙感解消に向けた会議・業務の見直し	B
	・ 管理職が勤務・生活状況を把握し、助言する。	B
	ウ ノー残業デイ、児童一斉下校日の設定（毎週水曜日のＣ日課によるノー会議日の設定）	B
	② ア 調査結果分析と対応を確実に行う。計画的な研修により、児童理解力や学級経営力の向上を図る。	B
	イ 管理職が自ら研修姿勢を示し、外部機関と連携し、研修内容の充実を図る。	B
課題等	① ア 高い倫理観を共有し、不祥事を他人事とせず自分のこととして考えることができるように取り組み、不祥事はゼロであった。今後も他業種の方を講師に招く等、服務倫理委員会における取組・内容を工夫していきたい。 ① ウ 毎週水曜日のノー残業デイは、学期末などの繁忙期には徹底することができなかった。教員の働き方の意識改革が必要である。 ② イ ＳＣ、ＳＳＷを積極的に活用し、保護者と面談、教員との協議を定期的に行い、一年間連携して進め、効果を上げることができた。	

(4)その他

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	① 地域へ貢献する教育活動を展開する。 ・地域学習、運動会、防災訓練等	B
	② 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応	B
実践事項	① 地域の人や歴史に触れる教育活動を充実する。	B
	・ 児童や保護者に地域とともにあることを実感できるようにする。	
	② 「新しい生活様式」を徹底し、学校・家庭・地域が連携し、感染拡大防止に取り組む。	A
課題等	① 地域へ貢献する教育活動は十分に行うことができなかった。 ② 「新しい生活様式」の徹底と感染拡大防止については、地域や家庭と常に情報を共有し、連携して進めることができた。	

評価は、A、B、C、Dの４段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。
B（3）：おおむね、目標を達成している。
C（2）：やや目標の達成には至っていない。
D（1）：目標を達成していない。

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和５年３月１０日

学校名　　桑折町立半田醸芳小学校

職氏名　　校長　五十嵐　洋之

令和４年度　学校経営評価報告書

１　学校経営の方針

本校の学校経営の基本理念は，歴史と伝統を誇る半田醸芳小学校の根底にある「醸芳」の精神や，「半田銀山」にまつわる勤労意欲，不屈の精神，人間尊重の教育を基調として，「半田プライドを胸に　ふるさとを愛し　高い志と強い意志をもち　地域と共に学ぶ半田っ子」の育成としている。

そのために，以下のことを推進する。

（１）「すべては児童のため」を基本においた経営
（２）「チーム半田」による質の高い教育活動の創造
（３）教育目標達成のための３本の柱（知・徳・体）を軸とした確かな教育実践
（４）学習指導要領を基に，教師一人一人の指導力の向上を図る研修の充実と，校務分掌上の組織を積極的に生かした学校経営
（５）生徒指導の機能を生かした教育活動の展開
（６）「半田ならでは」の伝統ある地域の教育力を生かし，学校・家庭・地域が一体となった教育実践
（７）児童が安心・安全に生活できる学校環境・学級経営
（８）県北教育事務所，桑折町教育委員会の重点目標に基づいた教育の実現

２　学校経営総合評価

（１）学校経営・運営ビジョンの具現に向け，職員会議等で学校運営の方針や校長の考えを明確に示し，教育目標の達成及び学校課題の解決に向けて一丸となって取り組んできた。

本校の特色ある教育活動の一つは，「ふるさと学」とする地域学習である。地域の高い教育力（人材）と豊かな地域教材（もの・こと）を活用し，「半田ならでは」の教育活動を展開した。コロナ禍ではあったが，町無形文化財「半田銀山祇園ばやし」（３～４年），ホタル学習及び学校田での米作り（５年），半田銀山や西山城を中心とした歴史学習（６年）など，密度の濃い学習を行うことができ，ふるさと半田を愛する心の育成に努めることができた。

今年度の現職教育（授業研究）は，主体的・対話的で深い学びのある授業づくり，その中でも，「振り返りの充実」に視点をあて，一人一研究授業を実施した。事後研究会では，県北教育事務所並びに町教育委員会指導主事の助言をもとに，成果と課題を共有しながら授業力アップを図り，成果をあげることができた。

（２）生徒指導に関しては，学級経営の充実を基盤とし，生活アンケートやアンケートＱＵ，児童との教育相談により児童の実態を的確に把握しながら，未然防止と問題の早期発見・早期解決を図った。生徒指導協議会や教育支援委員会では，児童に関する情報を教職員間で共通理解を図りながら，「いじめ解消１００％，不登校出現ゼロ」「個に応じた特別支援教育」を目指した。

現在，不登校児はいない。今後も継続できるよう，保護者としっかり連携するとともに，児童や保護者が抱える課題に応じて，町ＳＣにつなぎアドバイスを受けながら，個に応じた指導を継続していきたい。通級指導教室に通う児童は５名いるが，通級指導教室担当と担任が常に情報共有を図りながら，また保護者との面談を通してよりよい指導を目指している。通常の授業では，特別教育支援員が授業に入り，教育的配慮が必要な児童に対し，適切な支援を行っている。

（３）教職員人事評価制度を活用し，教職員が教育目標の実現及び自己目標の達成に向けて，主体的に努力できるように，面談の際には，ステージに合わせて具体的に指導助言を行った。また，日頃の授業観察を心がけ，教育活動を終える度に，労いと称賛の言葉掛けを忘れないようにした。

最近問題となっている教職員の不祥事については，不祥事を自分事としてとらえることができるように，課題ごとに担当者を決め，課題に対して具体的な実践事例やチェックシート等を提案する型の服務倫理委員会を実施した。今年度も外部人材（PTA 役員・警察署員）の参加も実現した。次年度も教職員一人一人の倫理観と危機意識を高め，不祥事を自分事として捉えることができるよう働きかけを工夫しながら，不祥事の根絶を目指していく。

（４）来年度の学校経営・運営ビジョンの策定にあたり，今年度の教育活動を振り返り，本校の強みと弱みを教職員で整理・確認した。素直で心優しく，言われれば誠実に頑張れる子どもたちであるが，あきらめずにやり通す力が弱いこと，現状に満足してしまうこと，さらにより良い解決方法を工夫すること等が課題として挙げられた。そこで来年度は，「粘り強さ」「向上心」「創意工夫する力」を目指すスローガンを設定し，教職員・児童と課題を共有しながら重点的に取り組んでいくこととした。

教職員については，「チーム半田」の名の下に一致団結し，目指す方向を同じくして取り組める雰囲気と信頼関係がある。これは，半田醸芳小学校の伝統でもあるので，今後も大事にしながら学校経営を進めていきたい。

3　学校経営課題の実施状況

（1）学校経営全般について

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価 達成状況
重点事項	1　教師と児童，保護者が「半田プライド」を共有し，自信を持って教育活動ができる学校経営の推進 2「桑折町の１５歳の目指す姿」の実践と充実 3　地域や保護者との信頼を基盤に，教育活動の積極的な発信と保護者・地域との連携体制の強化	B
実践事項	①　職員会議・研修等で「学校経営・運営ビジョン」への理解を深めるとともに，具体的な取組の成果と課題を共有する。	B
	②　児童に対し，集会・行事等において「半田プライド」や今年度の重点目標（粘り強さ・向上心）について継続的に説明する。	A
	③　徹底反復練習（陰山メソッド），体力向上「一学級一実践」など，町全体で取り組む事業について，見取りと評価を確実に実施し，さらなる内容の充実を図る。	B
	④　学校だよりやＨＰを活用し，学校の取組や児童の活躍の様子を，地域・保護者に積極的に発信し，目標等を共有し連携を図る。	A
	⑤　PTA・関係機関との情報共有を密にし，連携を図りながら多面的な視点をもって教育活動を進める。	B
課 題 等	①　次年度の運営ビジョンには,「評価・チェック項目」を位置づけた。それぞれの項目において，データや児童の姿から成果と課題を的確に捉え，改善を図っていきたい。 ②　重点目標（根気強さ・向上心）は，各種行事等において繰り返し児童に説いてきたため，児童及び職員にも共通理解が図られた。また，校内活動で見られた「半田プライド」につながる姿を写真や文章で定期的に掲示するなどして意識の浸透を図ることができた。伝統としてさらに発展させたい。 ③　町全体で取り組む事業のうち，徹底反復及び家読の取組は，日々の授業につながるものとして継続的に指導した結果もあり，数値的にも十分に成果を上げることができた。体力向上の取組については，依然として低下傾向が継続しているので，学校の課題を明確にし重点化することで，課題克服につなげていきたい。 ④　ＨＰはほぼ毎日，１日数回更新することができ，学校だよりについてもほぼ月３回のペースで発行することができた。子どもたちの活躍の様子だけでなく，活動の目的や方針等も保護者へのお知らせすることにより，共通の目標をもって子ども達を支援することができた。ＨＰは保護者からも好評を得ている。 ⑤　コロナ禍ということもあり回数が限られた。短時間でも，視点を明確にした情報交換を継続していきたい。	

（2）学校教育の管理について

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価 達成状況
重点事項	1　確かな学力の定着と,「主体的・対話的で深い学び」による活用力育成 2　道徳教育・生徒指導の充実による豊かな人間性の育成 3　教科体育の充実と運動の日常化による体力の向上及び健やかな心身の育成	B
実践事項	①　各種調査等の結果による学力の実態を的確に把握し，個に応じたきめ細やかな指導を推進する。	B
	②　現職教育等の実践により，自らの高まりを実感できる「まとめ・振り返り」を充実させ，児童の課題意識と解決意欲を高めるとともに，問題解決型の授業実践により，主体的・協働的に学ぶ態度を育成する。	A
	③　研修等を通して「考え・議論する道徳授業」のさらなる充実を図り，道徳的心情・実践力を高める。	B
	④　「児童に寄り添った指導」をさらに推進し，児童一人一人の自己肯定感が高まるような働きかけを工夫する。	A
	⑤　運動身体づくりプログラムの自校化，休み時間等における運動時間の確保と可視化，児童の体力の実態に応じた指導計画を推進することにより，計画的に体力向上を図る。	B
	⑥　養護教諭・栄養教諭・学校医と連携を図り，学校の実態に応じた保健健康指導を推進する。	A

課 題 等	① 「ぐんぐんタイム」や「ちょこっとタイム」を活用し，学級の学力の実態に応じた指導を積み重ねることができた。今後は，個の変容を評価しながら個別指導を進めていきたい。 ② 現職教育を中心とした授業実践により，ねらいに沿った「まとめ・振り返り」が充実してきた。しかし，個人差があるのが現状であるので，その前段の「共有活動」を充実させ，すべての児童がねらいに即した「まとめ・振り返り」ができるようにしたい。 ③ 研修等の助言を活かした授業実践ができた。道徳科での学びを自分の生活に活かす力・活かそうとする意欲をさらに育んでいきたい。 ④ 本校はいじめや不登校の問題が少ないが，アンケート調査により児童の実態を把握しながら，全体で共通理解を図ってきた。今後も「いじめ解消１００％，不登校出現ゼロ」を継続していきたい。 ⑤ 運動能力はもちろん，運動に対する意欲でも二極化が見られる。運動習慣が日常化するよう，取組への称賛・価値づけを繰り返すとともに，がんばりと成果を可視化し，意欲付けを図りたい。 ⑥ 養護教諭が中心となり，肥満傾向児童及び生活習慣が定着していない児童への個別指導を実施することができた。保健衛生に関わる学校内掲示等を工夫することにより，子ども達の意識も高まっている。	

（3）教職員の指導・監督について

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	1　個のライフスタイルに応じた助言等による教職員の心身の健康管理と勤労意欲の向上 2　人事評価制度の効果的活用による教職員の専門的な資質・能力の向上 3　服務倫理委員会のさらなる充実による教職員不祥事の絶無	B
実践事項	① 教職員との日常的なコミュニケーションを通して健康状態等を把握するとともに，個や状況に応じた助言・言葉かけを工夫する。	B
	② 人事評価制度を活用し，教職員一人一人のステージに応じた目標を設定させ，よさを活かした指導助言を継続的に行う。	B
	③ 外部講師の招聘や担当者による取り組みの提案，PTA 保護者の参加等，服務倫理委員会の充実を図り，不祥事の絶無を継続する。また，校長による「便り」を定期的に発行し，継続的に注意喚起を促す。	A
課 題 等	① 「時間外勤務一覧」等の内容を踏まえ，個別の声かけを工夫することができた。また，管理職・教務主任が連携することにより，校務の負担軽減につなげることができた。 ② 期首面談や中間面談の機会に，教職員の目標達成のために具体的な助言を行ったり，管理職からの期待を伝えたりすることができた。ただ，面談の機会だけでは指導助言は不十分である。常日頃の授業観察や声かけがとても大切であり，次年度の課題としたい。 ③ PTA 役員の参加や桑折分庁舎警察官を講師としてお招きしての服務倫理委員会を実施することができた。民間でのコンプライアンスに係る取組を紹介いただいたり，専門的な知識を指導していただくことで，不祥事防止への理解を深めることができた。また，校長発行の「服務倫理便り」を通して，不祥事防止への意識を高めるとともに，不祥事を自分事として捉えることができた。今後も「不祥事０」を継続していく。	

（4）その他について

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	1　新型コロナウイルス感染症拡大防止対応と学校事故の未然防止 2　地域に開かれた学校づくりに努め，学校，家庭，地域が一体となった教育活動を進める。	B
実践事項	① 校内の取組を情報発信することにより，家庭と連携した感染症拡大防止対応を継続する。 ② 施設等の日常的な点検を確実に行うとともに，各種訓練等の事前・事後指導を充実させる。	B

	③　地域の「人・もの・こと」を効果的に活用した「ふるさと学」のさらなる推進と充実を図る。また，活動の様子を情報発信し，協力・連携体制を整える。	
課 題 等	①　新型コロナウイルス感染症対策は，地域や校内の感染拡大状況によって変化せざる得ない時期もあったが，文書やメール等で感染対策の内容について保護者へ通知し，共通理解を図りながら対応することができた。 ②　大きな事故・事件等もなく教育活動を進めることができた。「子ども達の安全・安心を第一に考える」ことが全職員にも浸透し，未然防止対応や事前・事後指導を計画的に行うことができた。 ③　「半田ならでは」の地域学習である「ふるさと学」は，コロナ禍ではあったが，多くの方々の協力を得ながら計画通りに進めることができた。今年度は，「城攻めウォーク KOORI 2022」のオープニングセレモニーに参加する機会があり，本校の取組（半田祇園囃子の伝統継承）を広くアピールすることができた。今後も学校の取組を積極的に発信し，地域の方々との協力・連携体制を強固なものにしていきたい。	

評価は，A，B，C，D の４段階評価とする

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標を達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和５年２月２８日

学校名　　桑折町立伊達崎小学校
職氏名　　校長　佐　藤　浩　哉

令和４年度学校経営評価報告書

１　学校経営の方針（教育目標及び重点事項）

※　「福島県沖地震の被災状況下においても教育計画に基づき、教育活動の充実を目指す」ことを前提に以下の目標に向かい取り組んできた。

(1) よく考え本気で学習する子ども
　①　読み・書き・計算の徹底反復により、基礎学力の定着を図る。
　②　授業研究を充実させ、授業力の向上を図る。
　③　自学ノートの指導を通して、家庭学習の習慣化と自己マネジメントの向上を図る。

(2) 心豊かな礼儀正しい子ども
　①　地域の方々との交流や地域素材を生かした多様な体験活動を組織する。
　②　読書の時間を週３回位置づけ、目標冊数の読破を促し読書活動を活性化させる。
　③　心あるあいさつと返事の指導などを通して、時と場に応じた行動を身につけさせる。

(3) 明るく元気にやりとげる子ども
　①　マラソンやなわとびを奨励し、運動の日常化を推進する。
　②　新型コロナウイルス感染症予防の対策を徹底し、児童と保護者の意識を高める。
　③　早寝・早起き・朝ごはん、スクリーンタイムについて意識させ、健全な生活習慣を身につけさせる。

(4) 保護者・地域に開かれた学校
　①　学校の見える化を図り、保護・地域との協力体制を構築する。
　②　ＰＴＡ会員数に応じてＰＴＡ組織を改編し活動を円滑化する。

２　学校経営総合評価

(1) めざす児童像を「自ら考え行動し、粘り強く努力する子ども」とし、徹底反復、鼓笛、マラソン、なわとび、自学ノートなどの指導の際に、目標と振り返りを意識させ、また、できる限り、認め称賛することにより、自尊感情を育成することができてきている。

(2) 令和４年度は、福島県沖地震被災と新型コロナウイルス感染症への対応を行いながら、教育課程の実施となった。

　桑折町教育委員会の指導の下、町内の各小・中学校と情報交換をし、教育活動の充実を図った。特に入学式、運動会、宿泊学習、学習発表会、持久走記録会などの学校行事については、それぞれ以下のように実施した。

　①　入学式　来賓の参加を控えていただき、在校生は６年生のみの参加とした。
　②　運動会　例年５月に実施していたが、校舎で全児童が学習する状況でないため、昨年同様９月に午前中の行事として運動会を実施した。各家庭の人数制限は行わなかった。
　③　宿泊学習　６月初旬に予定どおり会津自然の家等で実施した。
　④　学習発表会　全校児童で実施したが､保護者等は発表学年の時に入場していただいた。なお、リモートで会議室で全ての学年の発表を見ることができるようにした。
　⑤　持久走記録会　昨年度までのマラソン大会を校庭のコースを走ることで安全を確保し名称を変えて実施した。

被災の復旧工事で土曜日、夏季休業期間には、工事音が大きく響き、教職員の業務に影響があったが、全職員復旧を前向きにとらえ、協力的に業務に取り組んだ。休業日の工事には、校長、教頭が交代で工事業者対応を行った。

コロナ対策を継続していたが、児童、教職員にも陽性者がでることとなった。しかし、学級閉鎖となることもなく、標準時数を確保し、各学年の内容を履修できる見込みであり、教育課程を完全実施することになる。なお、コロナ禍以前の状況に近づきつつあるが、学校行事等を実施する場合には、今後も慎重に判断しなければならないと考える。

3　学校経営課題（今年度の重点）の実施状況

(1)　学校経営

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　価 達成状況
重点事項	1　福島県沖地震の被災状況下においても教育計画に基づき、教育活動の充実を目指す。	A
	2　桑折町教育委員会や各学校、保護者、関係機関等と連携して教育活動を進めるため、連絡・相談を緊密に行う。	A
実践事項	○　困難な状況にあっても明るく前向きに教え導く教職員の姿を通して、児童の気持ちを明るく前向きにする。	A
	○　「めざす子ども像」を意識しながら、体験活動を重視した教育活動を展開する。	A
	○　教育課程の実施、授業改善、不登校傾向児対応、学習・生活習慣の確立について、町教育委員会の指導の下、ＰＴＡや各小学校と連携し推進する。	B
課題等	学習・生活習慣の確立については、特にスクリーンタイムの増加について懸念している。家庭教育講話を実施したり、ＰＴＡ総会でその危険性を話したりしているが、危険であることへの意識が薄い。今後も様々な機会・手段で啓発したい。	

(2) 学校教育の管理

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　価 達成状況
重点事項	1　感染症対策 新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。	A
	2　学力向上 (1) 基礎学力向上及び集中力の向上を図る。 (2) 自ら考えともに学びを深める子どもの育成を目指して、個別最適化・協働的・探究的な学びを意識して授業改善する。	B
	3　心の教育 (1) 読書の習慣化を図り、豊かな情操を養う。 (2) 縦割り班活動や地域人材による体験活動により、社会性や郷土愛を培う。 (3) 規範意識を高め、時と場に応じた行動を身に付けさせる。	B
	4　健康の増進・体力向上 (1) 運動の日常化を図る。 (2) 健全な生活習慣を身に付けさせる。	A
	5　特別支援教育の充実 (1) 個々の児童の特性に応じて、 社会的適応を図るための手立てを工夫し、学力の向上を図る。	B

実践事項	○　新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために、職員会議、打合せ等で方針、対策の共通理解を図り、児童への指導を徹底するとともに、各家庭への協力を依頼する。 ○　個人内評価を重視した読み・書き・計算徹底反復学習により個々の学力向上を図る。特に暗唱にも注力し自尊感情を育む。 ○　予想される児童の反応を重視し、学習課題の設定とコーディネートの工夫に焦点をあてて、全員で授業研究を行い、検証する。 ○　タブレットの活用方法に研修を深め、一人一人の学びを保障し学び合いを推進する。 ○　図書室の環境を整えるとともに、読書タイム（週３回）と家読を積極的に推進する。 ○　登校や清掃における縦割り班活動を推進するとともに、町教委等の関係機関と連携して地域人材を活用して多様な体験活動を行う。 ○　いじめ見逃し０のため、アンケート及び日常の観察を行う。 ○　特に「あいさつ」と「返事」を意識させる。 ○　運動身体づくりプログラムの自校化と「あぶくまマラソン」「なわとび大会」の充実を図る。 ○　「学びの習慣チェックシート」や日常観察等から実態を把握し、全体・個別に指導する。 ○　諸検査により本人の特性を把握し、SC、SSWや医療機関の協力を得て、保護者と連携して、個別の指導計画策定を含め、指導の手立てを講じていく。	A A B B B A A B B A B
課題等	素直な児童が多く、教員の指導の下、学力と体力を伸ばしている。一方で、自ら考え積極的に行動する児童が少ない。そのため、自ら間絵積極的に行動する機会を設定することが必要であり、年度途中から自分で（考え、選択し、根拠を持って）意見を述べる場面や表現する場面をできるだけ設定するように教職員で共通理解を図った。	

(3) 人事管理（教職員の指導・監督）

項　　目	おもな実践事項	評価 達成状況
重点事項	1　教職員が安定して職務を遂行できるように､指導助言を行う。 2　各教職員の経験に応じた課題をとらえて、指導力の向上を図る。 3　教職員の不祥事防止に努める。	A A B
実践事項	○　教頭、養護教諭と相談・打合せを行い、各教職員の健康、家庭の状況などをふまえて相談・助言にあたる。 ○　現職教育の授業研究や初任者研修等を核として指導助言を行う。また、毎日、授業訪問して気づいたことを伝える。 ○　「不祥事根絶のための行動計画」をもとに､『信頼される学校づくりを職場の力で』を活用するとともに、通知文や具体的事例を取り上げるとともに、各自の考えを述べ合う機会を設定し、教職員の意識を高め、服務倫理委員会の充実を図る。	A A B

課題等	服務倫理委員会の内容を検討し、互いに自分事としての意見を述べたり、場面を想定して発表し合ったりしたが、セーフティネット が構築できたとまでは言えない。また、家庭内のことまで把握しきれないことも多々ある。 授業訪問は毎日欠かさず行ったが、助言・指導をする時間を設定できないこともあった。	

(4) その他

項　　目	おもな実践事項	評　価 達成状況
重点事項	1　学校の見える化により、保護者・地域との協力の円滑化を図る。	A
	2　児童数の減少・実家庭数の減少に応じて、ＰＴＡ活動を見直す。	A
	3　新たな教育課題についての取組の準備と実践をする。	B
実践事項	○　学級通信の発行、ホームページの更新等により、学校の指導内容、児童の実態を知らせ、ともに子どもを育てる雰囲気を醸成する。	A
	○　組織と事業内容のスリム化を進めるとともに創立１５０周年記念事業を企画運営する。	A
	○　桑折町ＳＤＧｓ推進パートナーに登録し、具体的な取組内容の実践を推進する。	B
課題等	ＳＤＧｓについては、各教科書にも紹介されており、教育活動全体を通して意識して取り組まなければならない。校内組織でもＳＤＧｓ担当窓口を設置したい。 150周年記念事業では、式典を開催する際に地域の方々を別の形で招待できたのではないかと反省している。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。
B（3）：おおむね，目標を達成している。
C（2）：やや目標の達成には至っていない。
D（1）：目標を達成していない。

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和５年３月１日
学校名　　桑折町立醸芳中学校
職氏名　　校長　石　綿　　厚

令和４年度　学校経営評価報告書

１　学校経営の方針（教育目標及び重点事項）

(1) 自立　～　自ら学び、考え判断、行動し、自分を高める生徒（知）
　①　生徒が互いに高め合う授業をします。　②　学力を定着・向上させます。
　③　読書活動を充実させます。　④　志の教育を系統的・計画的に進めます。
(2) 利他　～　思いやりをもち、協力して、他者や社会のためつくす生徒（徳）
　①　規範意識を高め、自主性を育みます。　②　いじめ、不登校に丁寧に対応します。
　③　心の悩みの解決に努めます。　④　地域との交流を深めます。
(3) 健康　～　命を大切にし、心身ともに健康で体力を高める生徒（体）
　①　健やかな体づくりと体力向上を図ります。②　健全な生活習慣を形成します。
　③　命を守る安全教育を推進します。
(4) 努力　～　何事にも真剣に取り組む生徒（態度）
　①　努力する大切さを理解させます。　②　計画性を培います。
　③　挑戦する心、強い気持ち、感謝する心を育みます。

２　学校経営総合評価

(1) 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

１年１学期に多い自転車事故を、小中連携安全指導により今年度も無くすなどし、地域から優良学校の表彰を受けた。学校保健委員会を定期的に開催し、ｺﾛﾅの知見を活かして感染防止対策をとり、今年度の全学校行事等を実施した。若手とﾍﾞﾃﾗﾝの融合を図り、教職員のﾀﾌﾞﾚｯﾄ活用推進を戦略的に進め、生徒による有効活用が進んだ。今日的教育課題を先取りする経営に努め､LGBTQ研修や校則見直し等を実施し､町教育委員会の指示を仰ぎながら、教職員の持ち味を生かした指導の方向性を明示し､学校全体として指示が徹底した。また、各種校内委員会で様々な課題解決の見通しを明示、適切に対応し、保護者との信頼関係も深まり、ｽﾑｰｽﾞに学校経営・運営が実践できている。

(2) 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

生徒の学力保障に関して、GIGAスクール構想を踏まえ、校内推進組織を有効機能させ、教職員のICT活用力向上から生徒の学力向上につなげ､全国学テ・ふくしま学調の結果が向上した。また、学校全体の不登校生徒数が、ゼロではないが、減少した昨年度よりもさらに大きく減少した。さらに、コロナ感染予防や熱中症対策の科学的知見を踏まえて、教育課程、学校施設等、適正に管理できている。

(3) 教職員の指導・監督

初学年主任２名、採用２年め初管理部長、採用３年目初３年学担初進路指導主事、初現職主任と､教員５人を抜擢し､前任者や経験者にメンターとして指導的に関わらせてきた。５名は自信を深め職務遂行能力が向上し、学校組織力向上につながった。また、過去２年間発生した交通加害事故の未然防止で、安全確認と、心と時間に余裕のある出退勤を、機会を捉えて呼びかけ、危機意識や当事者意識を高め、これまで交通加害事故はない。

(4) 教育委員会及び関係諸団体との関係

２年間の経験を踏まえ確かな見通しをもち、生徒の命と学びを守ることを第一に考え、様々な要望を教育委員会に伝えた。厳しい学校の状況を理解して、大変好意的に寄り添う支援をいただき、充実した環境で教育活動を展開できた。また、地区内･学区内園小中間、地区･町連Pの各単P間連携を密にし､幼少期から義務教育終了時までを見通した､子どもの健全育成を啓発し､「ヘルメット着用共同宣言」等、協力体制の確立につながった。

３　学校経営課題（今年度の重点）の実施状況

（１）学校経営

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	１　学校経営・運営ビジョンにより学校の教育目標と各教育活動との関連を明確にし、教職員の意識を高め、組織的に教育活動にあたる。 ２　保護者への情報発信に努めるとともに、桑折町「15歳の姿」等を共通の基盤として、ＰＴＡ、町教育委員会、学区内幼稚園小学校との連携を強化する。	B A
実践事項	○教職経験豊富な学年主任と、ＩＣＴスキルに長けた若手教員の効果的な融合により、組織の活性化、教育技術の確実な伝達等に努め､全教職員を戦略的にスキルアップさせることができた。 ○学校から発出する文書や学年通信、ＨＰ等によって、情報をこまめに発信することにより、充実度の高い情報共有が図れた。また、自転車乗車時のヘルメット着用に関して、園・学校、ＰＴＡ（保護者）との役割を明確にし、各種会議での丁寧な合意形成により､学区内幼小中で共同宣言をまとめることができた。	B A
課題等	義務教育の出口となる中学校で、卒業時に「桑折町の１５歳のめざす姿」が具現化され、生きて働く力となる必要がある。そのために、授業、学校行事、家庭学習のあり方等、安全・安心を基盤に据えたすべての学校教育活動を、学校だけでなく、保護者や家庭、地域、町教育委員会との関連の中で吟味、検討し、相互の信頼関係を礎に力強く実践していく必要がある。特に、２年生で実施の職場体験で、地域企業や事業所と連携するにあたり、先進的または高度な技術を見学だけでもさせてもらえるなど、能力の高い中学生が将来の活躍場所として希望できる､地元にある職業範囲を広げる必要がある。	

（２）学校教育の管理

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	１　授業改善を中核として、全教員による楽しくわかる授業、問題解決的な授業と問題練習により、生徒の学力向上を図る。 ２　教職員の指導と生徒会活動等、生徒の自主的な活動の指導を有機的に関連させ、望ましい学習・生活習慣、読書習慣を身につけさせる。 ３　生徒の事故防止の徹底を図り、自己指導能力を高め、ＴＰＯに応じた言動の仕方を身につけさせ、特に、登下校時における自転車事故等が起きないように指導する。	B B A
	○「見通し」「個人で考える」「集団で話し合う」「振り返る」の４ステップを組み込んだ授業、タブレットを効果的に活用した	B

実践事項	授業の日常化を図り、また、互見授業週間を複数回設けて、教師同士の学び合いを組織し、授業の質が向上してきている。 ○「まとめ・振り返りの工夫」「学びを高め、深める話し合い活動の工夫」を意識した授業を共同実践研究し、地区中学校教職員研究物審査会で最優秀賞を受賞した。 ○生徒指導委員会、現職教育委員会、生徒会活動担当等の連携、役割分担と共同実践を進め、また、読書週間を年に２回（１１月と２月）設定した。 ○情報を得たら早急に現場確認し、その日のうちに指導を行い、ゼロトレランスの考え方で自転車乗車の安全指導を徹底し、また、小学校と連携して３月から春休みにかけて行った安全指導実践により、新年度入学生の危険な自転車事故はなかった。	A B A
課題等	生徒の学力向上に向けた教師の授業改善､校内各種委員会等の連携による､生徒の望ましい学習・生活習慣、読書習慣形成に向けて、今後も有機的に指導を関連させ､継続して組織的に工夫した実践を積み重ねていく必要がある。 自転車乗車時のヘルメット着用を、自転車通学許可との関連で検討し、また、家庭における適切なメディア使用に関しては、発達段階を考慮した幼稚園・小学校との共通実践を模索していく。その際、ともに各校種の保護者（ＰＴＡ）と密に連携し、町教育委員会からご指導をいただきながら、幼小中の流れを踏まえた一貫性のある実効ある実践となるよう検討する必要がある。	

（３）人事管理（教職員の指導・監督）

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	１　教職員が安定して職務を遂行できるように教職員の健康状態を把握し、先を見通した早めの対策をとる。 ２　教職員の授業力、指導力の向上を図る。一人一人の教職員の実態をふまえて適切な助言を行う ３　教職員の不祥事防止へ向けた主体的な取組を支援する。	B A B
実践事項	○教頭、養護教諭とともに、健康維持について助言した。また、「教職員多忙化解消アクションプラン」をもとに部活動休養日を週１日継続し、メリハリのある職務の効率化に努めてきた。 ○教職員一人一人との信頼関係を基盤に据え、校務分掌、経験年数をふまえ、期首・期末面談や日常機会をとらえ助言してきた。 ○本県資料「信頼される学校づくりを職場の力で」や他県の不祥事防止に向けた事例資料等を活用し、当事者意識や危機意識を高め、服務倫理委員会の活性化を図ってきた。また、今年も全教職員から標語を集め､校内各所に貼付し､相互啓発を図った。	B A B
課題等	経験の浅い若手教員の経験知を高める業務時間確保と多忙化解消とのバランスや、ベテラン教員の指導技術伝達の場の設定、理想の追求に限界のない教育活動のあり方など、教職員一人一人のステージや経験、家庭の状況等、実態を踏まえた適切な助言を、機会を捉えて実施していく必要がある。 今年度、教職員間で業務に関わる人間関係トラブルが複数件発生した。教	

	職員間の情報連携不足である場合が多く、丁寧な報連相の励行を再確認していく必要がある。また、全教職員が気持ちよく勤務できるように、同僚性を高め、思いやりの大切さを、機会を捉えて繰り返し呼びかけていきたい。

（４）その他

項　　目	主 な 実 践 事 項	評　価 達成状況
重点事項	１　いじめ、不登校生徒を出さず、また、不登校からの復帰を支える指導・支援を充実させるために、定期の教育相談やアンケート等の実施などに加えて、日常的に生徒観察を充実させ、未然防止や早期発見、早期解決に努めるとともに、組織的な取組を進める実効ある体制を構築する。	B
実践事項	○生徒指導委員会において毎週情報交換を密に行い､生徒の実態、変化を早く正確に把握し、いじめの未然防止と早期発見・解決や不登校等へのきめ細かな働きかけなど、迅速に対応できた。 ○不登校傾向の生徒に学級担任がこまめな家庭訪問を実施するとともに、工夫して自校化した援助チームシートを核として、ＳＳＲ運営等、組織的取組を継続的に行った結果、昨年に引き続き、ゼロではないものの学校全体の不登校生徒数が減少した。 ○ＳＣやＳＳＷとの連携を図り、様々な角度から問題解決の糸口を探り、焦らず諦めず粘り強く働きかけ等を継続してきた。	A B B
課題等	１年生は、不登校生徒が４名であった。２年生は、新たな不登校生徒が１名出現して３名となった。３年生は、新たな不登校生徒は出ず１人が修学旅行後に学級に復帰し、９名が不登校であった。すべて、完全不登校ではないものの、毎日登校し続けることはできないでいる。また、登校するものの、教室に入れない生徒が、１年生２名、３年生で２名おり、ＳＳＲや保健室、図書室、ＡＹＵＭＵＩで過ごしている。学級担任を中心にＳＣやＳＳＷと連携し、援助チームシートを活用しながら、家庭やＡＹＵＭＩと連携して様々な働きかけを支援し、また、特別支援教育支援員を中心にＳＳＲで支援し、その記録を毎日きめ細やかに記録して回覧しながら、不登校改善の糸口を模索し続けてきた。学級に復帰した生徒も１名いたが、大きな改善が見られない生徒が多い。 今後も、組織を生かし、様々な角度から働きかけや支援等を工夫し、焦らず諦めず粘り強く継続していきたい。	

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和５年 ３月１５日

学校名　　桑折町立醸芳小学校

職氏名　　校長　遠藤　和宏

令和４年度学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、教職員人事評価システム制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

２　学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は、学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中及びＰＴＡとの連携に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの４段階評価とする。

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね、目標の達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和５年２月２４日
学校名　　桑折町立睦合小学校
職氏名　　校長　　岩井　智哉

令和４年度　学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

２　学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	B
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	B
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、町学力向上推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの４段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。

B（3）：おおむね、目標の達成している。

C（2）：やや目標の達成には至っていない。

D（1）：目標を達成していない。

※　記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和５年３月１０日

学校名　　桑折町立桑折町立半田醸芳小学校

職氏名　　校長　五十嵐　洋之

令和４年度　学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は，教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は，学校経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し，教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし，知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は，めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し，地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は，児童生徒が夢や希望をもって学び，教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう，校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は，教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し，公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

２　学校運営及び児童生徒，学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は，教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳，特別活動の充実など，バランスのとれた学校運営に努め，教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は，児童生徒に確かな学力を身につけさせるため，教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ，特色ある学習活動を工夫し，「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の健やかな成長に資するため，定期に児童生徒の健康状態を把握し，事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は，生徒指導上の諸問題について，日々積極的な生徒指導に努め，学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は，定期に学校施設内の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

３　教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は，教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，児童生徒が教職員を信頼し，楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え，声なき声に敏感に対応できる体制を構築し，児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	B
4	校長は，教職員に対して常に「わかる授業」，「魅力ある授業」の創造に努めさせ，かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は，日頃，教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに，「労働安全衛生管理体制」を整え，教職員の労務管理の重要性を認識し，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

４　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は，町教育委員会の重点施策を理解し，校内体制を整え，組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は，町の青少年健全育成，学警連，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は，「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき，幼・小・中並びに家庭との連携の下に，授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は，A，B，C，D の４段階評価とする

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標の達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和５年２月２８日

学校名　　桑折町立伊達崎小学校

職氏名　　校長　　佐藤　浩哉

令和４年度学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は，学校経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し，教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし，知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は，めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し，地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は，児童生徒が夢や希望をもって学び，教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう，校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は，教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し，公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

２　学校運営及び児童生徒，学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳，特別活動の充実など，バランスのとれた学校運営に努め，教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は，児童生徒に確かな学力を身につけさせるため，教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ，特色ある学習活動を工夫し，「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の健やかな成長に資するため，定期に児童生徒の健康状態を把握し，事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は，生徒指導上の諸問題について，日々積極的な生徒指導に努め，学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は，定期に学校施設内の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は，教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，児童生徒が教職員を信頼し，楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え，声なき声に敏感に対応できる体制を構築し，児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は，教職員に対して常に「わかる授業」，「魅力ある授業」の創造に努めさせ，かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は，日頃，教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに，「労働安全衛生管理体制」を整え，教職員の労務管理の重要性を認識し，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は，町教育委員会の重点施策を理解し，校内体制を整え，組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は，町の青少年健全育成，学警連，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は，「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。
B（3）：おおむね，目標の達成している。
C（2）：やや目標の達成には至っていない。
D（1）：目標を達成していない。

※　記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和５年３月１日

学校名　　桑折町立醸芳中学校

職氏名　　校長　石綿　厚

令和４年度　学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は，学校経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し，教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし，知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は，めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し，地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は，児童生徒が夢や希望をもって学び，教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう，校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は，教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し，公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	A

２　学校運営及び児童生徒，学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳，特別活動の充実など，バランスのとれた学校運営に努め，教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は，児童生徒に確かな学力を身につけさせるため，教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ，特色ある学習活動を工夫し，「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の健やかな成長に資するため，定期に児童生徒の健康状態を把握し，事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は，生徒指導上の諸問題について，日々積極的な生徒指導に努め，学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は，定期に学校施設内の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は，教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，児童生徒が教職員を信頼し，楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え，声なき声に敏感に対応できる体制を構築し，児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は，教職員に対して常に「わかる授業」,「魅力ある授業」の創造に努めさせ，かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	A
5	校長は，日頃，教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに,「労働安全衛生管理体制」を整え，教職員の労務管理の重要性を認識し，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は，町教育委員会の重点施策を理解し，校内体制を整え，組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は，町の青少年健全育成，学警連，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は，「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	A

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標を達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

※　記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

第４　教育委員会の園長に委任する事務の管理及び執行状況

別紙１

【こども園長園経営評価】

令和５年２月２８日

職氏名　　園 長　 齋藤　小百合

令和４年度　　こども園経営評価報告書

1　園経営の方針

（1）　教育・保育目標の具現化を図り、『心豊かにたくましく生きる子ども』を育成する。
（2）　新型コロナ感染症の状況に応じた『学びの保障』をする。
（3）　『安全で安心な幼稚園・保育所づくり』を推進する。

2　園経営総合評価

（1）　職員一人一人の保育力を高めるために園・所内研修の充実を図り保育活動に活かすことができた。
（2）　教育・保育計画に基づき、新型コロナウイルス感染症対策をしながら重点事項を意識した保育実践に努めた。
（3）　園・所児が安全安心な環境でのびのびと過ごせるように月はじめの安全点検だけでなく日々の安全確認を行った。職員一人一人のさらなる危機管理意識の向上と、発達年齢に応じた安全教育が必要である。

3　園経営重点事項の実施状況（幼稚園）

（1）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育活動

項　　目	主な実践事項	評　　価 達成状況
重点事項	○　園内研修や保育研究会を通して保育の質の向上を目指す	A
実践事項	・　園内研修の充実	A
	・　幼児自ら主体的に取り組めるような環境の構成と教師のかかわり	A
	・　子どもの気付きや試行錯誤を大切にした考える過程を重視した保育	A
課題等	○　３学年とも年齢別保育研究会に米屋真由美氏をお招きし、一斉保育と好きな遊びを通して園児の育ちに触れ、指導・助言をいただいた。また、「互見研修」を実施し同学年の教材研究に触れ互いに良いところを取り入れ保育に活かすことができた。職員のニーズに合った内容であり子どもたちに還元できて大変効果的であった。 ○　コロナ禍の中、感染予防をしながら興味関心が持てる環境作りと主体性を大切にした援助を心がけた。継続して進めていきたい。失敗を恐れる幼児が多いことから、今後も継続して『失敗は成功の過程である』という共通認識のもと保育をする必要がある。 ○　発達や理解力の差はあるが、一人一人の幼児が持つ良さを引き出し、認め合えるようにかかわっている。今後も継続してニーズに合った研修を企画し保育に活かす必要がある。	

（2）特別支援教育の充実

項　　目	主な実践事項	評　　価 達成状況
重点事項	○　個別の支援・指導計画作成と活用 ○　教育相談の実施	A
実践事項	・　特別支援コーディネーターを中心とした実効的な支援体制づくり	A
	・　ユニバーサルデザインの視点を生かした環境設定・指導の工夫	A
	・　保護者との連携	A

	・　関係機関との連携	A
課題等	○　支援児の実態把握とともにニーズに合った理解しやすい環境作りや個々に応じた指導を実施していた。 ○　保護者支援、担任支援を特別支援コーディネーターが担っており、必要に応じた教育相談の実施、現場での状況を把握と必要に応じた支援を行う等、きめ細やかに対応している。 ○　関係機関との連携については今後も継続して取り組んでいきたい。	

（3）体を動かす遊びの充実

項　　目	主な実践事項	評　価 達成状況
重点事項	○　体を動かす心地よさや楽しさを感じ取らせる教師のかかわりの工夫 ○　体の基礎をつくり運動機能を発達させる遊びの充実	A
実践事項	・　体を動かす遊びの継続的な取り組みの推進	A
	・　１学年１実践、１学級１実践	A
	・　外部講師による幼児への運動遊びの指導	A
	・　運動遊びを誘発する環境の構成	A
	・　身体諸機能の発達に応じた場の工夫	A
	・　意欲を引き出す教材や教具の提示	A
課題等	○　コロナ禍の中でも対策を講じながら戸外での遊びや散歩などを多く取り入れた。 ○　自ら進んで取り組みたくなる環境構成の工夫や教師の援助に努めた。 ○　コロナの状況を見ながらではあったが、外部講師による運動遊びを各学年実施できた。 ○　苦手意識が強く取り組もうとしない幼児へのかかわりについては、昨年度の課題であった。各担任が工夫してかかわり、意識して取り組んでいた。	

（4）絵本の読み聞かせ活動の推進

項　　目	主な実践事項	評　価 達成状況
重点事項	○　絵本に興味や関心を持てるような場や提示の工夫	A
実践事項	・　経験や体験、または季節や時期に応じた絵本の提示の工夫	A
	・　１日１冊絵本を読む時間の確保	A
	・　絵本の部屋の充実	A
	・　家庭での読み聞かせの啓発（１日１冊）	B
課題等	○　町からの予算を活用して絵本を精選し絵本の部屋や各クラスの充実に努めた。 ○　毎週全家庭に幼稚園の絵本を貸し出しており、楽しんで読み聞かせをする家庭が増えている。 ○　昨年度、保護者に読み聞かせの大切さを知らせる工夫が課題であったため、保育参観日に園長の話を 10 分設け、その中で絵本の話題にも触れた。 ●　前記のように取り組んだものの、家庭への意継続的な欲付けが課題である。	

（5）『こおりことばの教室』の指導体制の充実

項　　目	主な実践事項	評　価 達成状況
重点事項	○　指導体制の充実	A
実践事項	・　言語指導の充実	A
	・　必要な手続き書類や受付方法等の共通理解	A

	・　必要な教材準備と適切な環境構成	A
	・　言葉の教室にかかわる職員の業務分担調整	A
課題等	○　関わる職員が兼務であり、研究会に参加し、実践等を報告する必要があることから業務分担が過重にならないように努めた。また、互いに調整を図りながら指導にあたることができた。 ○　コロナ禍で研修を受けられなかったが、他教室との情報交換や指導事例集への参加等、他関係機関との連携に努めた。 ○　今年度はリモートで言葉の研修を受講でき、指導に活かすことができた。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。B(3)：おおむね，目標を達成している。
C(2)：やや目標の達成には至っていない。D(1)：目標を達成していない。

別紙２

【園長自己評価】

令和５年２月２２日

桑折町立醸芳幼稚園

職氏名　園長　齋藤　小百合

令和４年度　幼稚園経営自己評価

１　園長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	園長は，教育目標の具現のため，園経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その理解に努めたか。	A
2	園長は，園経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，その取り組みを評価したか	B
3	園長は，めざす園経営の理念を保護者に具体的に示し，園経営上の課題の解決に当たったか。	A
4	園長は，園児が毎日を楽しく通園し，教職員が意欲をもって園経営に参画できるよう，「園風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	A
5	園長は，幼稚園教育の理念を深く理解し，園の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して園児の自己実現が図れるよう全力を挙げて園経営に努めたか。	B

２　教育（保育）及び園施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	園長は，教員（保育士）の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め，教育課程（保育）を確実に実施したか。	A
2	園長は，教職員ともども園児の特性や能力等の実態に応じ，特色ある保育活動を展開し，園児の遊びの充実に努めたか。	B
3	園長は，園児の健やかな成長に資するため，定期に園児の健康状態を把握し，事故ある時は教職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	園長は，園生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，園児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	園長は，定期に園内の施設の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，園児や教職員及び保護者・地域の園利用者の事故防止に努めたか。	A

3　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	園長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，園児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	園長は，教職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，園児が教職員を信頼し，楽しく充実した園生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	園長は，園経営に対する苦情や教職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し，園児が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	園長は，日頃，教職員が園施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための園の体制を整えるように努めたか。	A
5	園長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	園長は，園児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	園長は，町教育委員会の重点施策を理解し，その実現のために組織を挙げて努力したか。	A
3	園長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，園としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	B
4	園長は，町の青少年健全育成，ボランティアセンター，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	園長は，「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき，小・中及び家庭との連携推進に努めたか。	B

※ 4－(5)の項目は、保育所において評価対象外

評価は，A，B，C,D の４段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。
B(3)：おおむね，目標を達成している。
C(2)：やや目標の達成には至っていない。
D(1)：目標を達成していない。

別紙２

【所長自己評価】

令和５年２月１７日

桑折町醸芳保育所

職氏名　所長　三村　隆二

令和４年度　保育所経営自己評価票

１　所長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	所長は，保育目標の具現のため，所経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その理解に努めたか。	A
2	所長は，所経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，その取り組みを評価したか	B
3	所長は，めざす所経営の理念を保護者に具体的に示し，所経営上の課題の解決に当たったか。	B
4	所長は，入所児が毎日を楽しく通所し，教職員が意欲をもって所経営に参画できるよう，「所風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	A
5	所長は，所保育の理念を深く理解し，所の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して所児の自己実現が図れるよう全力を挙げて所経営に努めたか。	A

２　保育及び所施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	所長は，保育士等の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め，保育課程を確実に実施したか。	B
2	所長は，職員ともども入所児の特性や能力等の実態に応じ，特色ある保育活動を展開し，入所児の遊びの充実に努めたか。	A
3	所長は，入所児の健やかな成長に資するため，定期に入所児の健康状態を把握し，事故ある時は職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	所長は，所生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，入所児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	所長は，定期に所内の施設の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，入所児や職員及び保護者・地域の所利用者の事故防止に努めたか。	A

3　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	所長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，入所児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	所長は，職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，入所児が職員を信頼し，楽しく充実した所生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	所長は，所経営に対する苦情や職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し，入所児が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	所長は，日頃，職員が所施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための所の体制を整えるように努めたか。	A
5	所長は，職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	所長は，入所児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	所長は，町教育委員会の重点施策を理解し，その実現のために組織を挙げて努力したか。	A
3	所長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，所としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	B
4	所長は，町の青少年健全育成，ボランティアセンター，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B

評価は，A，B，C,D の４段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。
B(3)：おおむね，目標を達成している。
C(2)：やや目標の達成には至っていない。
D(1)：目標を達成していない。

※　記入に当たって、自己評価の内容・形式は同じですので、**評価の欄のみ記入となります。**

第５　第三者評価委員会による評価

第三者評価委員による評価について

1　会議開催経過と主な内容

日時：令和５年２月２８日（火）午後２時
場所：桑折町役場　庁議室
内容：令和４年度重点の説明（教育委員会重点、園（所）・学校経営重点説明と取組み状況報告）

日時：令和５年１０月１３日（金）午後１時３０分
場所：桑折町役場　大会議室
内容：第三者評価の実施、評価の結果報告（答申と意見等の報告）

2　評価に対する評価委員からの意見等

【全体的な意見等】
・数値目標や数値実績があって、大変評価の参考となった。
・教育委員会重点の表記が非常に簡潔だったことが、すごく印象的で、重点施策が明確である。
・すべての項目で、一貫しているのは、桑折町としての組織的な取り組み、一体感というのがずっと柱が立っているように読み取れたことが非常に良かった。
・成果・評価について、マイナス面もきちんと文章表現されていることは、素晴らしい。
・歴史について、町として盛り上がっている部分がすごいと感じた。
・未来の人材の育成もすごく頑張っていると感じた。
・子どもを持つ親としては、非常に未来の桑折町を期待しています。

【評価項目に対する意見等】
1　一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育
(1)〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。
・数値目標と実績が明確なって、成果が出ていることがここで表れている。
・徹底反復について、集中実施期間の設定、管理職の関わりや教育委員会の関わりなどの手立てが工夫されており、全体的な一体感が資料から読み取れる。

(2)〔体力向上〕子どもたちが生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成し、県トップレベルの体力・運動能力を実現する。
・学校で学級活動の題材で指導を行い、その様子をホームページにアップし、家庭にも連携を図ったというところも含めて、指導はされてきていると感じた。
・自家用車で送られて来る児童・生徒の減少」があるが、中には行きたくないが、車で送ってもらえるなら行くという子供もいるということも理解いただきたい。

・体力テスト結果について、目標は 4/4 種別とあるが、粘り強く取り組む内容であるため、2/4 種別くらいに目標を設定すると良かったのではないか。

(3) 〔心の教育〕子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。
・町全体として組織的な対応や情報共有はよくできているけれども、その結果がついてこないと読み取れた。
・PTA の組織がきちんとしており、学校とのやり取りに会長が入り、また、保護者との間に入ることができれば良いと感じた。

2　一人一人を大切にする温かい教育
⑴ 〔特別支援教育〕特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。
・教育におけるユニバーサルデザインについて、具体的な取り組み内容を評価シートに記入してほしい。

⑵ 〔不登校対応〕子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。
・「魅力あるよりよい学級・学校づくりの推進」について、何をすればこうなるのかということについて、ここに重点項目としてあげるならば、取り組みの中に具体的な内容を記入してほしい。

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成
⑴ 〔英語教育〕子どもたちに英語の４つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。
・英検の受験奨励と、その受験料の半額補助、それに関わる桑折学習塾というのが、セットになっており、子どもたちの英語教育の一つの目標になっていると感じ、こういったものが具体的な取り組みだと感心した。

⑶ 〔各種教育課題〕子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育んでいくことをめざす。
・「ふくしまゼロカーボン宣言事業」に取り組んだとあるが、具体的に何をやったのということについて、例示があるといい。

4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続
⑴ 〔保育改善・充実〕幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子どもたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。
・令和３年度の評価と見比べるとすっきりしてわかりやすい。
・幼保小架け橋プログラム検討委員会など、いろいろ工夫されて改善されている。
・数値目標設定は難しい領域かと思いますが、保護者の意識の変容、反応などあれば、評価がより客観的になるのではないか。

1　生涯学習活動の推進

⑴　生涯学習の推進

・生涯学習の最終目標は、地域づくりにつながるかどうかだと思います。生きがいづくりもその要素と考えるが、この地域づくりと生涯学習がうまく連携するといい状況になるのではないか。
・生涯学習について、コーディネートしていくことがすごく大事である。

⑵　ライフステージに応じた多様な学習機会の提供

・講座の実施や成人講座の内容などを含めて、新たなものを追い求めているという姿が見られたことについて良いと感じた。
・こおりキッズスクールの登録人数が伸び悩んでいるところについては、PTA の力をお借りしたり、学童クラブや放課後子ども教室とこおりキッズスクールがタイアップするなど、お互いに協力すべきである。

⑶　青少年育成と社会教育団体の活動奨励

・青少年健全育成については、PTA が大きな原動力になる。

⑷　心を豊かにする読書活動の充実

・ブックスタート事業や中央公民館おはなしの会については、成果があったと思っています。
・「よも～よ」で、本の紹介が広報に出ていますが、こういったところは評価ができる。

⑸　芸術・文化の振興

・文化祭において、中学生や高校生がボランティアなどで関わることができれば、会場が華やかになると考える。

⑺　多世代交流及び多文化交流の推進

・地域の方が学校に来てくれる学校支援と、子どもたちが地域に出向いて桑折の歴史とか産業を学ぶなど外部に出ていくという双方向の形が欲しい。
・地域学校協働の協働という字は、双方向という意味であるため、校長会などで、もう一度確認すべきである。

2　社会体育・生涯スポーツの推進

⑴　健康・体力づくりを目指す生涯スポーツ・社会体育の推進

・小学生陸上競技大会が、社会体育という枠組みの中で行うことができたという素晴らしい実績であったと感じた。
・町民に対して、小学生陸上競技大会の運営業務について、ボランティアなどの形で、役員を募集してもいいのではないか。

3　歴史まちづくりの推進

⑴　歴史的風致維持向上計画の推進

・山城跡来場者数も圧倒的な実績により、評価ができる。また、案内人の勉強会、講座とこども歴史案内人という切り口、ここに目を付けたところは、桑折ならではというものであり、高い評価である。

⑵　文化財の保護・活用の推進

・西山城については、メディアに多く出たため、知名度も上がったと思う。

第６　参考資料

○桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則

平成23年４月27日教委規則第２号

改正　平成25年１月28日教委規則第４号

平成27年３月27日教委規則第１号

令和３年９月27日教委規則第２号

（設置の目的）

第１条　桑折町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の所管事務に係る管理及び執行状況について地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第１項に規定する点検及び評価を実施するにあたり、教育施策の改善・充実に向け、同条第２項の規定により外部有識者の知見を活用するため、第三者評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

（所管事務）

第２条　評価委員会は、当該年度における次の各号に掲げる事項について評価し、その結果を教育委員会に報告する。

(1)　教育委員会関係の管理及び執行状況及び事務局の事務執行に関する自己評価

(2)　町立小・中学校の学校経営報告及び自己評価

(3)　町立幼稚園経営報告及び自己評価

（組織）

第３条　評価委員会は、委員３名をもって組織する。

２　委員は、有識者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期）

第４条　委員の任期は、委嘱の日から２年間とする。ただし、再任を妨げない。

（委員長等）

第５条　評価委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを決める。

２　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

３　委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第６条　評価委員会の会議は委員長が招集し、これを主宰する。

（報告書）

第７条　評価委員会は、当該年度の評価結果を評価報告書にまとめ、翌年度６月までに教育委員会に報告する。

（守秘義務）

第８条　委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

（庶務）

第９条　評価委員会の庶務は、教育委員会教育文化課において処理する。

（委任規定）

第10条　この規則に定めるものの他、評価委員会の運営に関し必要場事項は教育委員会が別に定める。

附　則

この規則は、平成23年４月１日より施行する。

附　則（平成25年教委規則第４号）

この規則は、平成25年４月１日から施行する。

附　則（平成27年教委規則第１号）

この規則は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（令和３年教委規則第２号）

この規則は、令和４年４月１日から施行する。

桑 折 町 教 育 大 綱

（令和３年９月２４日 総合教育会議で決定）

本教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、町長が、町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものである。

本町においては、今回新しい町総合計画を策定したところであり、その内容に基づいて教育大綱を次のように改め、計画期間も総合計画と同様に令和４年度から令和１３年度までとする。

１　基本目標

桑折町総合計画**「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」**に基づき、町の将来像**「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」**の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進する。

２　基本方針

（１）みんなで子育て・教育に携わり、「子育てするなら桑折町」「桑折ならではの質の高い教育」と評価されるような**乳幼児保育・教育や学校教育の推進**を通して、子育て支援の充実と「桑折町の１５歳のめざす姿*（人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子）*」の実現に努める。　**〔子どもを大切にするまちづくり〕**

（２）**生涯学習・生涯スポーツ事業の推進**を通して、みんなが生きがいをもち、心身ともに健康で活き生きと暮らせるまちづくりに貢献する。　**〔健康長寿で元気なまちづくり〕**

（３）**歴史まちづくりの推進**を通して、みんなが互いに協力し、町の魅力や元気を発信しながら、交流の輪が広がるまちづくりに貢献する。　**〔交流で絆を育むまちづくり〕**

３　施策の体系と主な取組み

（１）乳幼児保育と教育の充実	
①待機児童ゼロの堅持	◆認定こども園の開設に伴う既存保育所の運営移行 ◆保育士や支援員の確保と施設・設備の充実 ◆支援員の研修や関係者間の情報共有による保育体制の充実
②幼児教育の質の向上と小中学校への接続	◆環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実 ◆認定こども園との連携に基づく幼児教育の実施 ◆研修会・先進園視察実施 ◆自然と触れ合う活動の充実：自然体験・歴史体験・栽培活動の実施 ◆保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施 ◆幼児・児童・生徒の交流活動の実施 ◆特別支援教育の充実：ことばの教室・就学相談会
③家庭への手厚い子育て支援	◆幼稚園給食費全額補助、幼稚園入園祝い品制服贈呈、病児病後児保育利用助成 ◆子育て参考図書配付や家庭教育講演会開催、子育て相談、子育て支援策の情報発信
（２）学校教育の推進	
①一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育の推進	◆学力向上（脳科学研究に基づく生活習慣改善、読み・書き・計算徹底反復、探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践、家読奨励、桑折学習塾など） ◆体力向上（「早寝・早起き・朝ごはん」町民運動の推進、給食を活用した食育、運動身体づくりプログラム、運動継続の一校（園）一実践、地域スポーツとの連携など） ◆心の教育（不登校・いじめ対策、規律・礼節の重視、体験活動・平和学習・キャリア教育の充実、ふるさと教育（西山城見学など）の拡充など）
②新しい時代に必要となる資質・能力の育成	◆英語教育（英語指導助手・指導協力員の活用、英検受験奨励・費用助成、英語体験活動の実施など） ◆情報活用能力の強化（１人１台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業、家庭でもつながる通信環境を活用するオンライン授業や家庭学習、ＩＣＴ支援員配置・活用と教職員研修など）

③一人一人を大切にする温かい教育	◆各種教育課題への対応（防災・安全教育、持続可能な開発のための教育、感染症対策も含む健康教育など） ◆特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用、関係機関との連携による切れ目のない支援体制の確立など） ◆不登校対策（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援、不登校が起きない学級・学校づくり、教育支援センターによる教育機会確保と学校復帰支援など）
④家庭への手厚い子育て支援	◆経済的支援（給食費助成・制服贈呈・就学援助・奨学資金貸与など） ◆家庭教育支援（参考図書配付や家庭教育講演会開催による家庭の教育力向上支援、情報提供や相談体制整備、子育て支援施策についての情報発信の強化など）
⑤教育施設・設備の充実	◆学校教育施設（長期的な維持・管理・整備計画の作成（学校プールの取り扱いも含む）） ◆給食センター（施設・設備の計画的な維持管理・整備、管理・運営の在り方の検討）
⑥小中学校の在り方の検討	◆少子化への対応策の検討（学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析、小学校統合についての様々な観点からの検討など） ◆学校運営の改善の検討（働き方改革や学校・地域連携・協働の推進、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入の検討など）
（3）生涯学習の推進	
①生涯学習活動の推進	◆生涯学習に関するニーズの把握　◆「桑折町生涯学習推進基本計画」の見直し ◆ライフステージに応じた多様な学習機会の提供 ◆主体的に学ぶ機会の推進と場の提供　◆ＩＣＴを活用した学習機会の提供
②公民館施設等の管理運営	◆地域での施設活用に対する奨励・支援　◆各施設の計画的な維持補修 ◆イコーゼ！及びよも～よの適切な管理運営 ◆公民館等施設の近隣市町村との相互利用検討
③芸術・文化の振興	◆芸術鑑賞会や文化講演会の開催 ◆町文化団体連絡協議会（町文化祭事業含む）及び加盟団体等の活動奨励・支援 ◆町民が主体的に活動成果を披露する場の提供
④多世代交流の推進	◆地域学校協働活動事業　◆こおり地域クラブの活性化 ◆ボランティア人材の発掘　◆地域リーダーの育成　◆青少年育成事業の充実
⑤多文化交流の推進	◆姉妹都市エリザベスタウン市との相互交流 ◆国際交流を推進する自主的活動への支援
（4）生涯スポーツの推進	
①健康・体力づくりを目指す生涯スポーツの推進	◆各種スポーツイベント、講演会等の開催 ◆健康・体力づくりのための事業展開
②スポーツ団体等の支援	◆各種スポーツ団体への活動支援（補助金、奨励費等の交付）
③体育施設等の充実	◆スポーツ公園（仮称）整備の検討 ◆体育施設全般の有効的な管理運営方法の検討 ◆体育施設の経年劣化に伴う計画的な維持補修 ◆体育施設の近隣市町村との相互利用の検討
（5）歴史まちづくりの推進	
①歴史的風致維持向上計画の推進	◆歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進 ◆歴史案内人育成と体制の充実 ◆既存の散策ルートを活用した歴史遺産周遊路の設定
②文化財の保護・活用の推進	◆史跡桑折西山城跡の保存団体を組織し、維持管理や案内を行う体制づくり ◆文化財の新規指定と国・県指定への格上げ ◆伝統文化の継承に対する支援及び発表の機会の提供
③桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し	◆文化記念館の復旧　◆文化記念館の歴史探訪・観光拠点機能の充実 ◆資料や美術品を保管・公開する博物館機能の充実

桑折町教育振興基本計画（2022～2031）の概要

令和３年８月策定

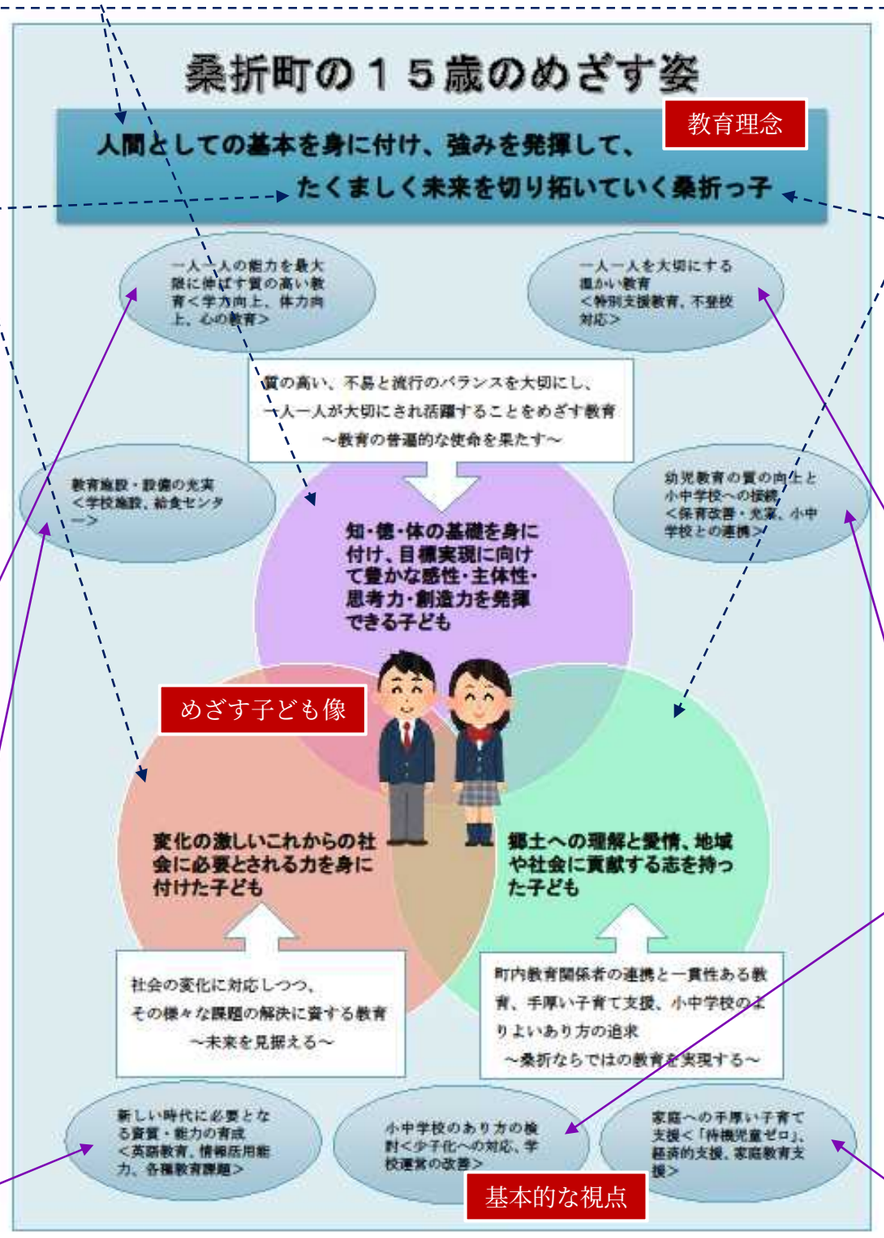
桑折町教育委員会

これは、令和４年度から１０年間のまちづくりについての計画「桑折町総合計画」との関連を図りながら策定した、今後１０年間の桑折町の教育計画の概要です。本計画の柱となるのが、教育理念・めざす子ども像と、それを実現するための基本的な視点をまとめた「桑折町の１５歳のめざす姿」です。さらに、それぞれの基本的な視点に基づいて具体的な施策を計画し、実施していきます。

教育理念・めざす子ども像（その1 ）　*「人間としての基本」とは、知・徳・体の基礎（確かな学力、豊かな人間性、健康・体力）であり、「人間としての強み」とは、豊かな感性・主体性・思考力・創造力です。これを育成することが教育の普遍的使命であり、時代を超えても変わらない教育の「不易（ふえき）」です。*

教育理念・めざす子ども像（その2 ）

「たくましく未来を切り拓いていく」ためには、変化の激しいこれからの社会に必要とされる力を身に付け発揮することが求められます。これを育成することが未来を見据える教育を行うことであり、時代よって変わっていく教育の「流行」です。



教育理念・めざす子ども像（その3 ）

「桑折っ子」は、郷土への理解と愛情、地域や社会に貢献する志を持った子どものことです。これを育成することが地域に根ざした教育、桑折ならではの教育を行うことです。

具体的な施策

- ◆ *脳科学研究に基づく生活習慣改善、読み・書き・計算徹底反復、探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践、家読奨励、桑折学習塾*
- ◆ *「早寝・早起き・朝ごはん」町民運動の推進、給食を活用した食育、運動身体づくりプログラム、運動継続の一校（園）一実践、地域スポーツとの連携*
- ◆ *不登校・いじめ対策、規律・礼節の重視、体験活動・平和学習・キャリア教育の充実、ふるさと教育（西山城見学など）の拡充*

- ◆ *特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用、関係機関との連携による切れ目のない支援体制の確立*
- ◆ *不登校が起きない学級・学校づくり、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援、教育支援センター等による教育機会確保と学校復帰支援*

- ◆ *保育改善・充実に向けた研修会や視察の拡充*
- ◆ *保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育・授業研究会、幼児・児童・生徒の交流活動*

- ◆ *学校施設・設備について、長期的な維持・管理・整備計画の作成*
- ◆ *給食センター施設・設備の計画的な維持・管理・整備、今後の管理・運営のあり方の検討*

- ◆ *学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析、小学校統合についての様々な観点からの検討*
- ◆ *小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入などの検討、学校における働き方改革の推進*

- ◆ *英語指導助手・指導協力員の活用、英検受験奨励・費用助成、英語体験活動の実施*
- ◆ *１人１台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業、家庭でもつながる通信環境を活用するオンライン授業や家庭学習、ＩＣＴ支援員配置・活用と教職員研修、ＩＣＴ教育環境の整備と充実*
- ◆ *防災・安全教育、持続可能な開発のための教育、感染症対策も含む健康教育*

- ◆ *保育所や預かり保育の「待機児童ゼロ」を堅持していくための受け入れ体制の整備*
- ◆ *給食費助成・制服贈呈・就学援助・奨学資金貸与・病児病後児保育利用料助成*
- ◆ *参考図書配付や家庭教育講演会開催による家庭の教育力向上支援、情報提供や相談体制整備、子育て支援施策についての情報発信の強化*